

K-585

米沢市埋蔵文化財調査報告書 第94集

街道西下遺跡

発掘調査報告書



州浜形溝状造構 KY9 平面図

2008

米沢市教育委員会

街道西下遺跡 発掘調査報告書

2008

米沢市教育委員会

序 文

本報告書は、店舗予定地造成にかかる受託事業として米沢市教育委員会が実施した『街道西下遺跡』の発掘調査報告書です。

遺跡は店舗造成予定地にかかる分布調査によって新たに発見されました。年代は奈良、中世期が主体であり、米沢市中心部北方の中田町に位置しています。

この度の発掘調査の成果として、県内最古級の瓦、中世期では初の検出となる州浜形溝状遺構が注目されました。

これらの成果は置賜地方の古代、中世史を研究する資料として貴重であり、末永く活用する所存です。また、本書が文化財保護の啓発や教育活動の一環として役立てば幸いです。

最後になりましたが、今回の発掘調査にあたり、格段のご指導を賜りました文化庁、山形県教育庁教育やまがた振興課文化財保護室、ご協力頂きました（株）ヤマザワ、並びに地元関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

2008年3月

米沢市教育委員会

教育長　舛田忠雄

例　　言

- 1 本報告書は、店舗予定地造成工事にかかる緊急発掘調査として、米沢市教育委員会が実施した街道西下遺跡発掘調査報告書である。
- 2 調査は、米沢市教育委員会が主体となって株式会社ヤマザワとの受託事業として実施したものであり、期間は平成19年5月23日～同年6月10日、同年6月20日～同年7月20日、同年11月20日～同年11月21日までの延べ22日間である。
- 3 調査体制は下記の通りである。

調査主体	米沢市教育委員会
調査総括	村野 隆男（教育管理部文化課長）
調査担当	手塚 孝（教育管理部文化課文化財主査）
調査主任	菊地 政信（教育管理部文化課文化財担当主査）
調査参加者	小形 直美 坂野ちゑ子 新藤伊勢夫 丸山忠俊 近野 慶子 重野 正美 永井ゆり子 渡辺 悅
事務局	佐藤 孝市（教育管理部文化課長補佐） 青木 千尋（教育管理部文化課文化財担当主任） 遠藤 知沙（教育管理部文化課臨時職員）
調査指導	文化庁 山形県教育庁教育やまがた振興課文化財保護室
調査協力	株式会社 ヤマザワ

- 4 挿図の縮尺は、スケールで各図に示した。
- 5 出土遺物は、米沢市埋蔵文化財資料室（米沢市花沢町一丁目4-21）に一括保管している。
- 6 本報告書で使用した略号は、B Y-掘立柱建物跡、H Y-堅穴住居跡、T Y-柱穴跡、K Y-溝状遺構、D Y-土壙、D N-井戸跡、O Y-墓壙、P-ピット、A Z-土器、B Z-石器、E Z-石製品、G Z-木器を表示している。
- 7 本書の作成は菊地が中心となり、小形直美、近野慶子、永井ゆり子が補佐した。全体については手塚が総括した。

本文目次

序文

例言

I 遺跡の概要	1
II 調査の経過	1
III 検出遺構	4
(1) 縄文時代の遺構	4
(2) 古墳時代の遺構	4
(3) 奈良時代の遺構	4
(4) 中世の遺構	4
○掘立柱建物跡	5
○溝状遺構	5
○土壤	6
○井戸跡	19
○柱穴・ピット	19
IV 出土遺物	20
○縄文時代の遺物	20
○古墳時代の遺物	20
○奈良時代の遺物	20
○中世の遺物	21
V まとめ	39
参考文献	40
報告書抄録	41

挿図目次

第 1 図 街道西下遺跡位置図	2
第 2 図 街道西下遺跡調査範囲図	3
第 3 図 街道西下遺跡遺構全体図	7
第 4 図 街道西下遺跡遺構平面図 (1) HY 1	8
第 5 図 街道西下遺跡遺構平面図 (2) HY 2	9
第 6 図 街道西下遺跡遺構平面図 (3) BY 1・2	10
第 7 図 街道西下遺跡柱穴断面図 BY 1・2	11
第 8 図 街道西下遺跡遺構平面図 (4) KY 9・DY 12	12
第 9 図 街道西下遺跡遺構平面図 (5) KY 4・5	13

第10図	街道西下遺跡遺構平面図(6) KY 3・6	14
第11図	街道西下遺跡遺構平面図(7) DN 5	15
第12図	街道西下遺跡遺構平面図(8) DN 6他	16
第13図	街道西下遺跡遺構平面図(9) DY 15他	17
第14図	街道西下遺跡枠組み展開図DN 5	18
第15図	街道西下遺跡出土遺物実測図(石器・砥石)	22
第16図	街道西下遺跡出土遺物実測図(土師器)	23
第17図	街道西下遺跡出土遺物実測、拓影図(須恵器)	24
第18図	街道西下遺跡出土遺物拓影図(瓦)	25
第19図	街道西下遺跡出土遺物拓影図(瓦)	26
第20図	街道西下遺跡出土遺物拓影図(中世陶器)	27
第21図	街道西下遺跡出土遺物実測図(木器)	28
第22図	街道西下遺跡出土遺物実測図(柱)	29
第23図	街道西下遺跡出土遺物実測図(柱)	30
第24図	街道西下遺跡出土遺物実測図(横木)	31
第25図	街道西下遺跡出土遺物実測図(板)	32
第26図	街道西下遺跡出土遺物実測図(板)	33
第27図	街道西下遺跡出土遺物実測図(板)	34
第28図	街道西下遺跡出土遺物実測図(板)	35
第29図	街道西下遺跡出土遺物実測図(宝珠)	36

付表目次

第1表	街道西下遺跡出土遺物一覧表	37
-----	---------------	----

図版目次

第1図版	街道西下遺跡の発掘	第7図版	街道西下遺跡出土DN 5枠組
第2図版	街道西下遺跡の発掘	第8図版	街道西下遺跡出土遺物
第3図版	街道西下遺跡の発掘		
第4図版	街道西下遺跡の発掘		
第5図版	街道西下遺跡出土瓦		
第6図版	街道西下遺跡出土遺物		

I 遺跡の概要

本遺跡は米沢市中心部の北方部に広がる中田町の水田地帯に位置する。遺跡の西方を北流する旧鬼面川支流と、東側の旧最上川支流（松川）に挟まれた細長い自然堤防上に立地するもので、大半が農地となっている。遺跡の発見は、平成18年の秋にこの地区において店舗建設にかかる大規模な造成工事に伴う埋蔵文化財分布調査の依頼があり、米沢市教育委員会が試掘調査を実施して発見した新規の遺跡である。遺跡の面積は南北100m、東西50mの約5,000m²と推測される。

周辺の遺跡群としては、北方の笹原遺跡（1981年調査）、南方の大浦遺跡（1987～2004年に亘って調査）がある。両者とも奈良時代から平安時代にかけての官衙関連遺跡として注目されている。

II 調査の経過

今回の調査は、山形市に事務所を置く株式会社ヤマザワが、本市中田町地内に店舗用地造成を計画、さらに2006年（平成18年）11月17日に同社から大規模開発（26,000m²）にかかる試掘調査の依頼が、米沢市教育委員会教育管理部文化課にあつたことにはじまる。

これを受け、同課調査員が同年11月22日に試掘調査を実施したところ表土下30cmの地点で土師器片や溝状遺構及び柱穴群を確認した。この結果、米沢市教育委員会は調査が必要であると判断し、関係者と協議を行い記録保存を前提に緊急発掘調査を実施する方向で一致した。

発掘調査は、開発側が発掘調査費の一部を負担する受託事業として契約を締結し2007年（平成19年）5月23日～同年7月21日の日程で開始することになった。発掘調査期間の中で同年6月11日～6月19日の延べ9日間は、他の遺跡（上谷地B遺跡）の発掘調査のため中断したが、6月20日に復帰した。

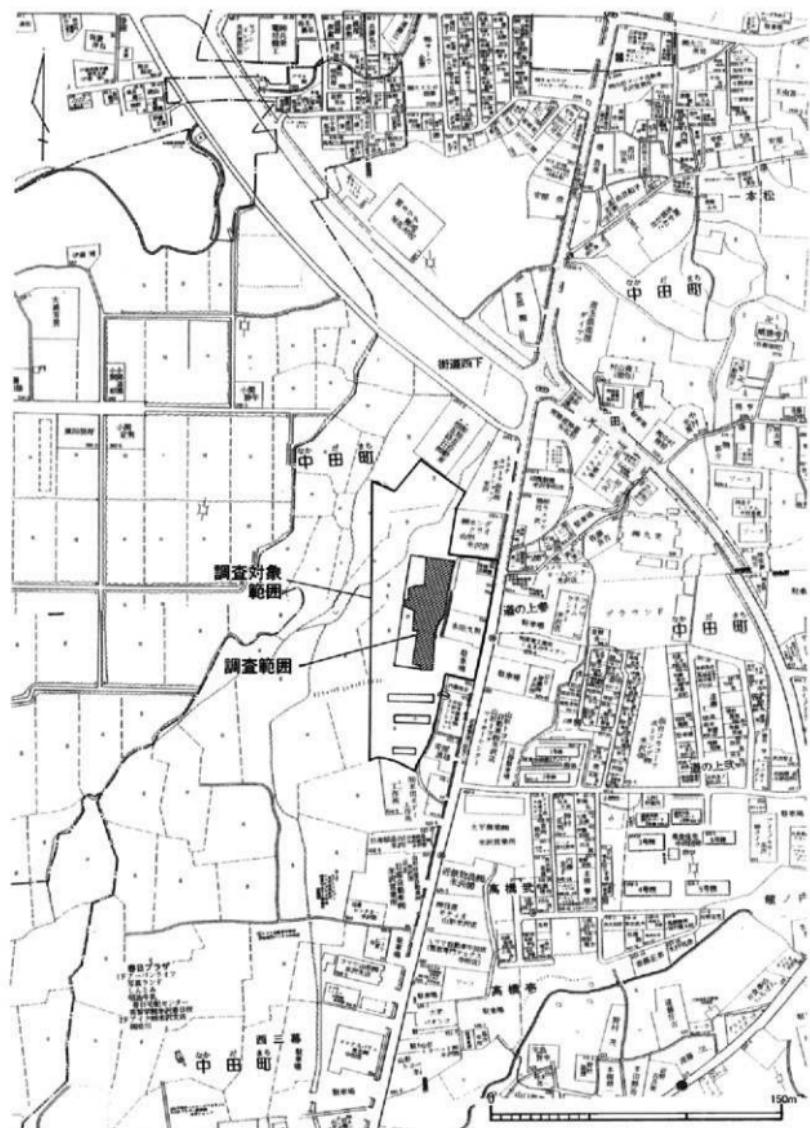
また、調査区南方の調査予定地域の一部が耕作地として晩秋まで利用されていたことから、収穫終了後の同年11月20、21日の2日間発掘調査を実施した。この調査により、溝状遺構KY4の南方コーナー部を確認することができた。

調査の進行によって、第3図で示す北西箇所の竪穴住居跡、南方に溝状遺構群、中央部に土壙や柱穴群等を確認した。これらの遺構群について、5月30日から掘り下げを開始したところ、古墳時代・奈良時代・中世の時期に相当する遺構群を検出したがその大半は、中世であることが判明した。

6月28日に西側の表土剥離を実施し、一日で終了した。この地区に於ける面整理の結果、州浜形溝状遺構を確認した。7月18日には現地説明会を開き、その日の午後からDN5の井戸枠部材の取り上げを実施、7月20日まで今回の発掘調査を終了した。延べ日数は22日間、調査対象面積3,200m²、調査面積は2,313m²であった。



第1図 街道西下遺跡位置図



第2図 街道西下遺跡調査範囲図

III 検出遺構

今回の調査区からは、縄文時代、古墳時代、奈良時代、中世の各時期に構築された遺構群が検出された。出土遺物等の吟味から、大半は中世期に位置する。

遺構の総数は219基で、種別では竪穴住居跡2棟、掘立柱建物跡2棟、墓壙2基溝状遺構12基、井戸跡5基、土壙24基、柱穴44基、ピット128基であった。これらの遺構群を年代別に以下に述べる。遺構出土の遺物についての詳細は、第1表を参照願いたい。

(1) 縄文時代の遺構

調査区北方部のDY7とKY2に挟まれた地域に点在するピット群であり、覆土や配列から竪穴住居跡に付随する柱穴の可能性が高いと判断される。第15図1~4は出土した剥片で、二次調整が認められる。土器は認められなかった。

(2) 古墳時代の遺構

OY17、18の2基の墓壙が検出された。長軸方向を南北に有し、長方形に掘り込んで構築している。深さが20cm前後と浅いことから上部が削平されたものと推測され、覆土は人工堆積を示していた。遺物は出土しなかった。

(3) 奈良時代の遺構

2棟の竪穴住居跡が検出された。第4・5図に示したHY1・2で方形に掘り込んで構築し、大型のHY1には周溝が認められる。両者とも床面から柱穴跡は確認されなかった。

HY1は、調査区の北西端部に位置し490cm×490cmの正方形の平面形状を有する。壁は、垂直に近い立ち上がりである。カマドは認められなかった。

第4図に示した竪穴住居跡床面の黒点は遺物出土位置であり、遺物が南西部に集中している。第16図の1・3・5・6、第17図9が図化することが出来た出土遺物で土師器の壺類と甕形土器、須恵器である。土師器の大半は磨滅が著しく調整痕等が不明なものが多かった。

竪穴住居跡の東方床面に南北に掘り込んだ溝状遺構は、北方部が蛇行している形態であり、一種の排水溝とみる。

HY2は、調査区の中央部西方端部に位置し360cm×320cmの不正方形の平面形状を有し、上部が削平された状態で検出された。第5図で示す様に床面の中央部東寄りに焼土が検出されたが、カマドは認められなかった。

遺物は、内黒土師器壺、土師器甕底部等が出土しているが小破片で占められ、図化が可能なものはなかった。2棟の竪穴住居跡は出土遺物から判断して奈良時代の中葉に位置する。なお、遺物の詳細な出土数については、IVの頁で述べる。

(4) 中世の遺構

本遺跡の中心を占める遺構群であり、掘立柱建物跡や溝状遺構、井戸跡、土壙で構成される。これらの遺構群を形態別に以下に述べる。

○掘立柱建物跡

第6図に示したのが掘立柱建物跡を構成する柱穴群であり、円形や長円形に掘り込んだ底面に扁平の川原石を配置する形態が大半であった。柱穴の規模は40～80cmで、深さは40～50cmを測る。第6・7図の「砂目」のスクリーントーン箇所は柱跡を示している。

他にも柱穴は確認されたが、掘立柱建物跡として成立させることができず、第6図のB Y 1・2の2棟に留まった。この2棟は、柱穴の重複関係からⅡ期に区分されⅠ期をB Y 1、Ⅱ期にB Y 2が位置する。B Y 1には、南方に塀が付随する構成、B Y 2には南方に庇が付隨し両者とも、東西に長を有する建物跡である。

B Y 1を構成する柱穴群は、T Y 20～34・43・46・62・65・70の20基であり、梁行6間、桁行4間の規模である。間尺は、210cm(7尺)を基本としているが桁行に関しては、北方の一間に70cmの箇所(添柱)が認められる。塀は、T Y 58・71～79の10基で構成され、配置から4脚の小規模な門の存在が想定される。

柱穴は、塀を含めて総計30基から構成されるがその中で、底面に川原石を配する形状は6基であった。

B Y 2は、T Y 1～3・5～11・18・19・36～39の16基、他に庇箇所のT Y 12～15・17・91の6基で構成され、B Y 1より一回り小規模になっている。梁間5間、桁行2間であり東側に一間の仕切りを有する建物と判断される。間尺は、B Y 1と同様に210cm(7尺)を基本としている。

Ⅱ期の柱穴は、庇を含めて総計22基で構成され、底面に川原石を配する形状は16基であった。底面の川原石の使用率は圧倒的にⅡ期の掘立柱建物跡が多用していると言える。

柱穴は、B Y 1・2を構成するのを除くと他に44基確認している。これらの中で底面に川原石を配する形状は9基であった。

○溝状遺構

調査区の全域に亘って確認され、形状から3形態に細別される。祭祀を目的に構築されたK Y 9、区画を目的にしたK Y 4、排水等を主要目的としたK Y 1～3 A B・5～8・10～12に分けられる。列挙した順に説明を加える。

K Y 9は、掘立柱建物跡の南側に位置し、左右対称の州浜形に掘り込んだ溝状遺構であり、第8図に平面図を示した。最大幅は、北方部東西の720cmを測る。南北は660cmを測り、北方端部の2箇所に柱根跡が認められた。

溝の幅は最小で80cm、最大で150cmあり、深さは50～60cmでくびれ部が最深である。溝によって区画された形態は、土偶に類似する形態を示し、丁重に計算するかのように掘り込んである。平面図の黒点は、遺物出土箇所を示した。

出土遺物は、第17図1・5は須恵器破片、第20図5・7～9は中世陶器片であり、遺構の年代を示す資料である。総数で10点出土しており、層位としては底面が大半

であった。

溝に水を取り入れた施設は確認されなかつたが、雨水が溜まると自然に州浜形がより鮮明になる。

このような形態の類例としては、2004年（平成16年）に財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した山形県最上郡鮭川村大字京塚字上野に所在する「上野遺跡」から検出した石組池SG37がある。石組で州浜を形成し水を溜める施設である。内湾する箇所に立石が認められており、本遺跡の柱根跡が立石の役割をするものと推測される。

KY4は、南東部に構築され幅180cm、深さは30～40cmを有する。南北で直角に曲がり、東方に延びる形態である。溝に囲まれた平坦な箇所からの遺構は検出されなかつた。第9図が平面図であり、黒点箇所から遺物が出土している。

KY1～3AB・5～8・10～12は深さが5～20cmと浅く、特に南方のKY1・2・7に関しては本来の形態が削平によって著しく変容された状況であった。第10図に示したKY3ABを境として南側に遺構群が減少することから、掘立柱建物跡に関連する溝状遺構と考えられる。

○土壙

平面形状から方形と円形に大別され、前者はDY12・23の2基、後者はDY1～4・7・11・13～16・19～22・24～31の22基を検出し、さらに規模や深さ等から3形態に細別される。

大型で深い形態は、DY1・15の2基でありDY15の底面からは多量の鉄滓が出土している。

次に小型で深い形態として、DY2・4・7・13・14・16・19・20～22・24・25・27・28・30の15基であり、最も多く認められた。

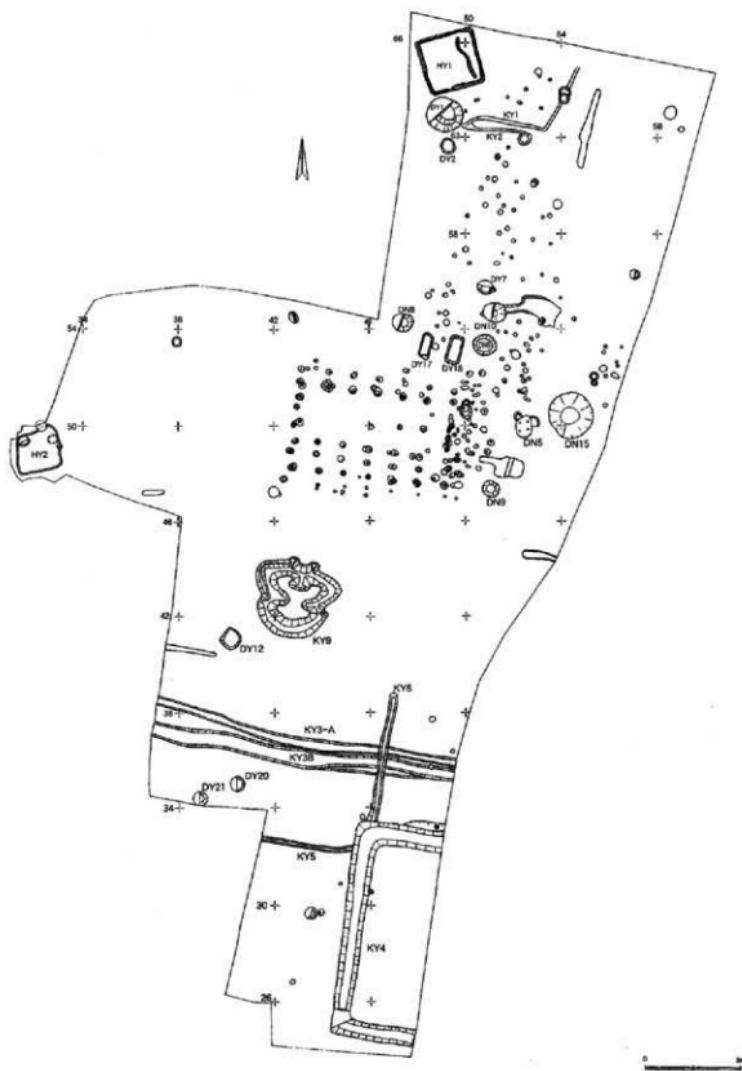
同じく小形で浅い形態は、DY3・11・26・29・31の5基がある。これらについて形態別に述べる。

方形のDY12は、第8図で示す様にKY9とした州浜形溝状遺構の西南に位置し底面には、拳より少し大きい川原石が多量に敷かれていた。第20図1の須恵系陶器が出土しておりKY9と同様な年代が想定される。DY23は浅く、遺物は出土しなかつた。

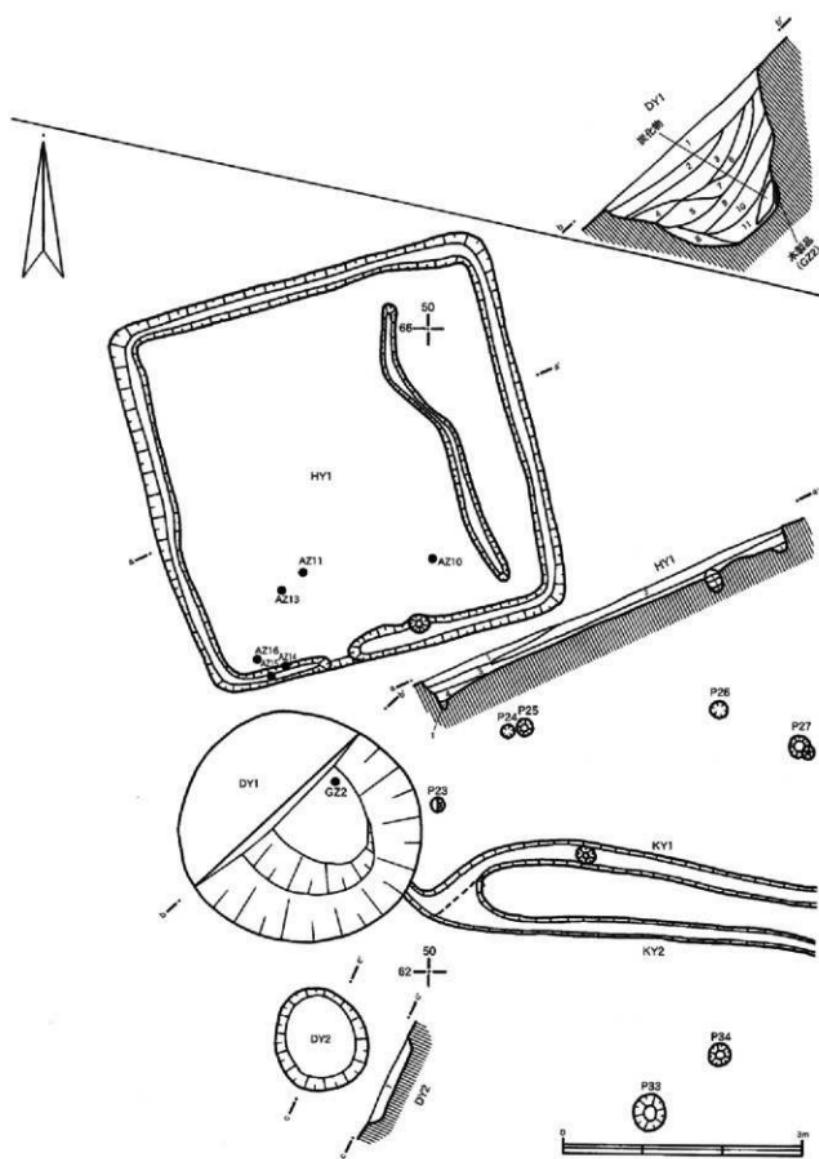
大型の深い土壙は、土質から判断して粘土採集穴と推測され、ゴミ等を捨てる場所として再利用された。

DY1からは、第21図2で示した桶の底板が底面から出土している。他に同じ箇所から植物の葉や茎、竹材が出土した。全てが焼成を受けており、第21図1の砂目スクリーントーンは焼成面を表示している。

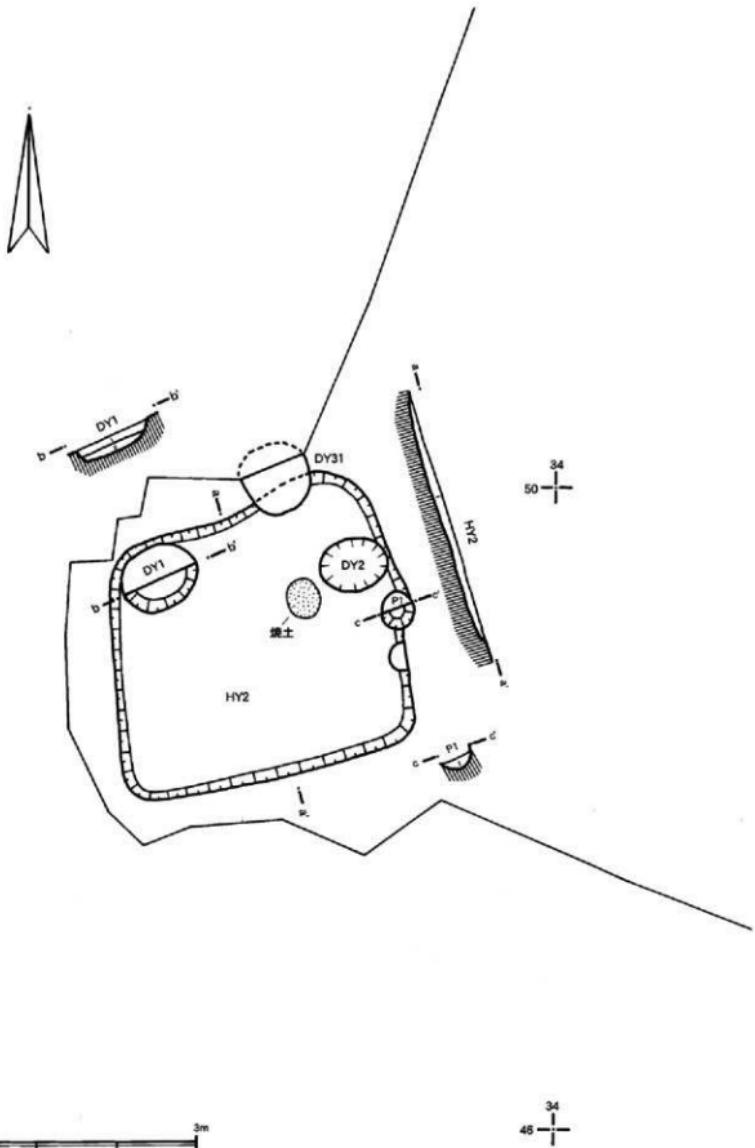
DY15は、前述した遺物の他に第6図版6の羽口も出土している。覆土は2基とも人工堆積であった。



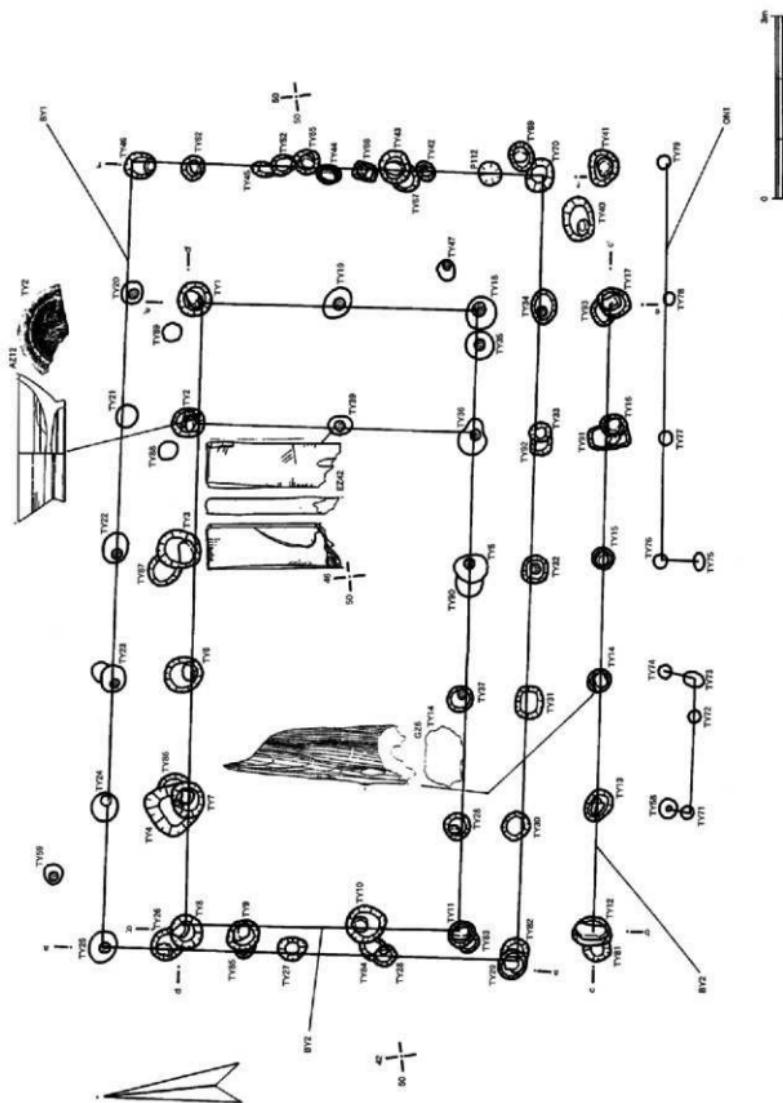
第3図 街道西下遺跡遺構全体図



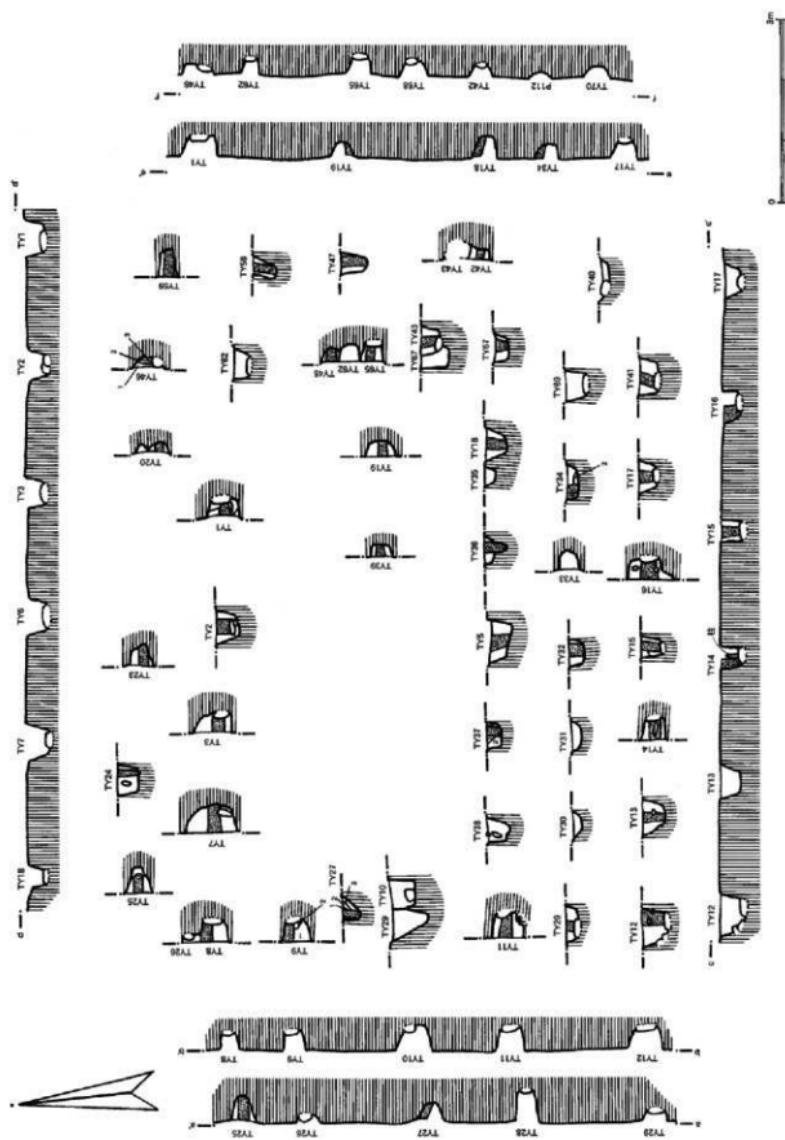
第4図 街道西下遺跡遺構平面図 (1) HY1



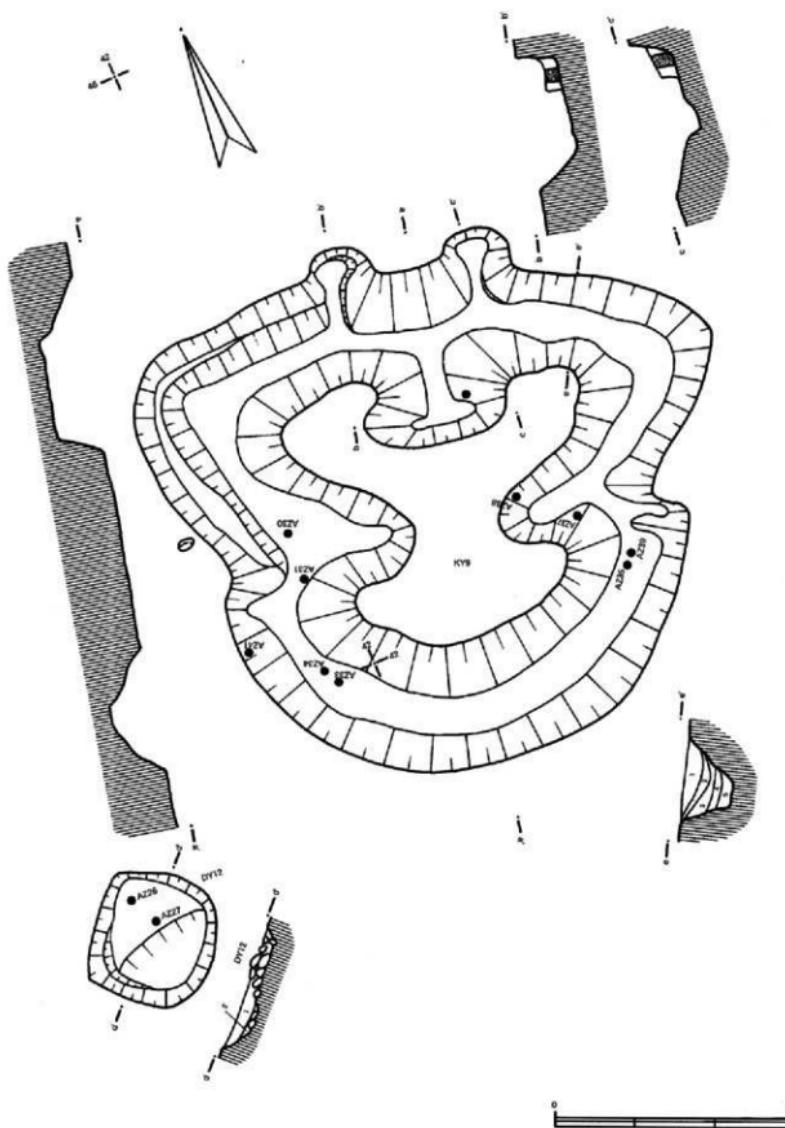
第5図 街道西下遺跡遺構平面図 (2) HY2



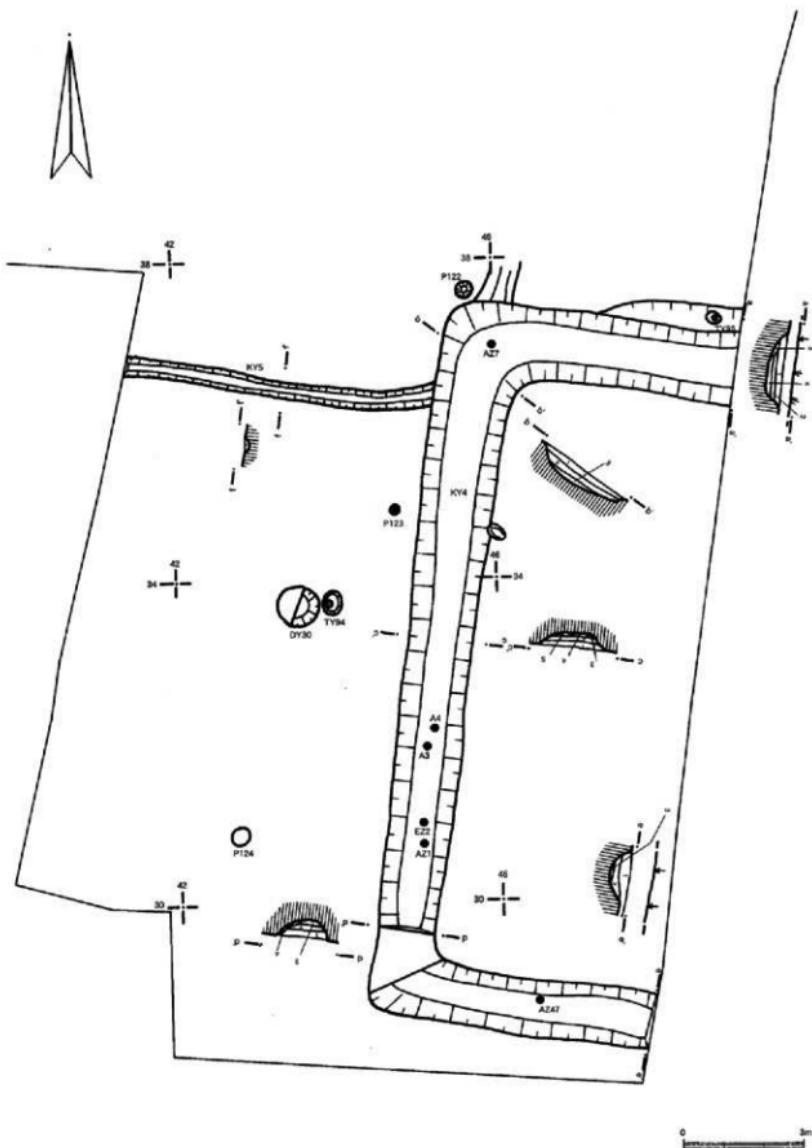
第6図 街道西下遺跡造構平面図 (3) BY1・2



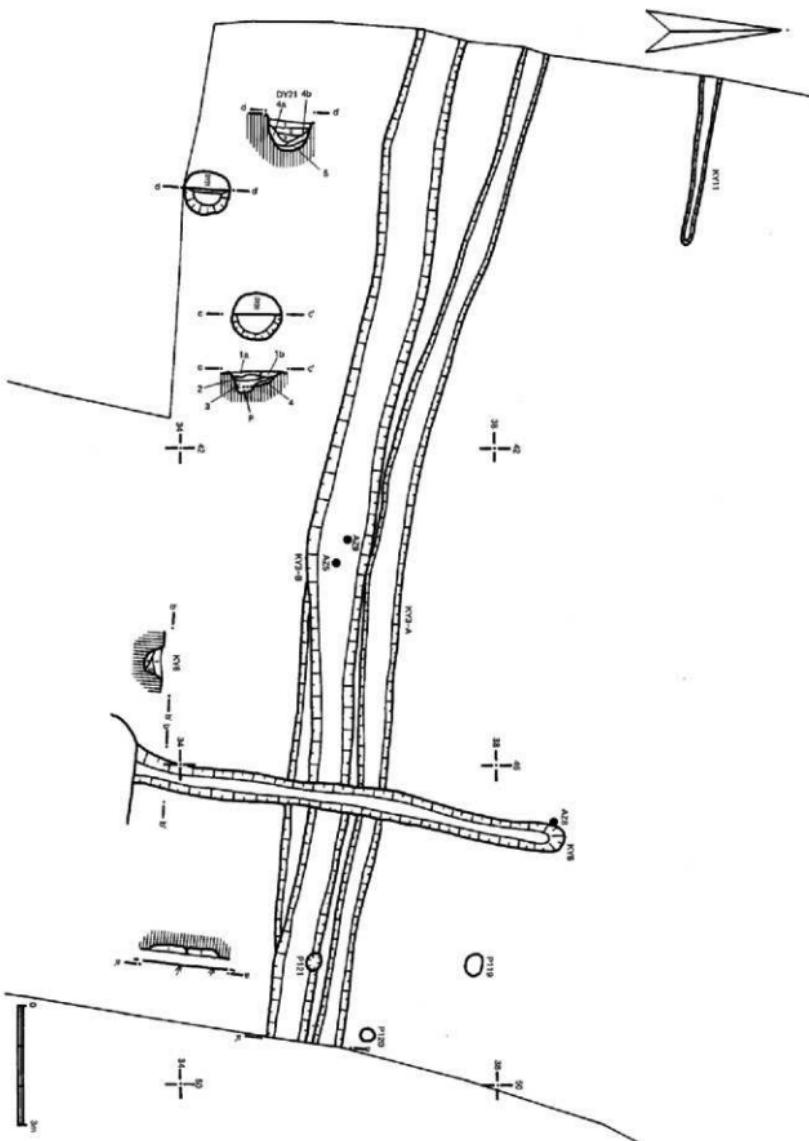
第7図 街道西下遺跡柱穴断面図 (1) BY1・2



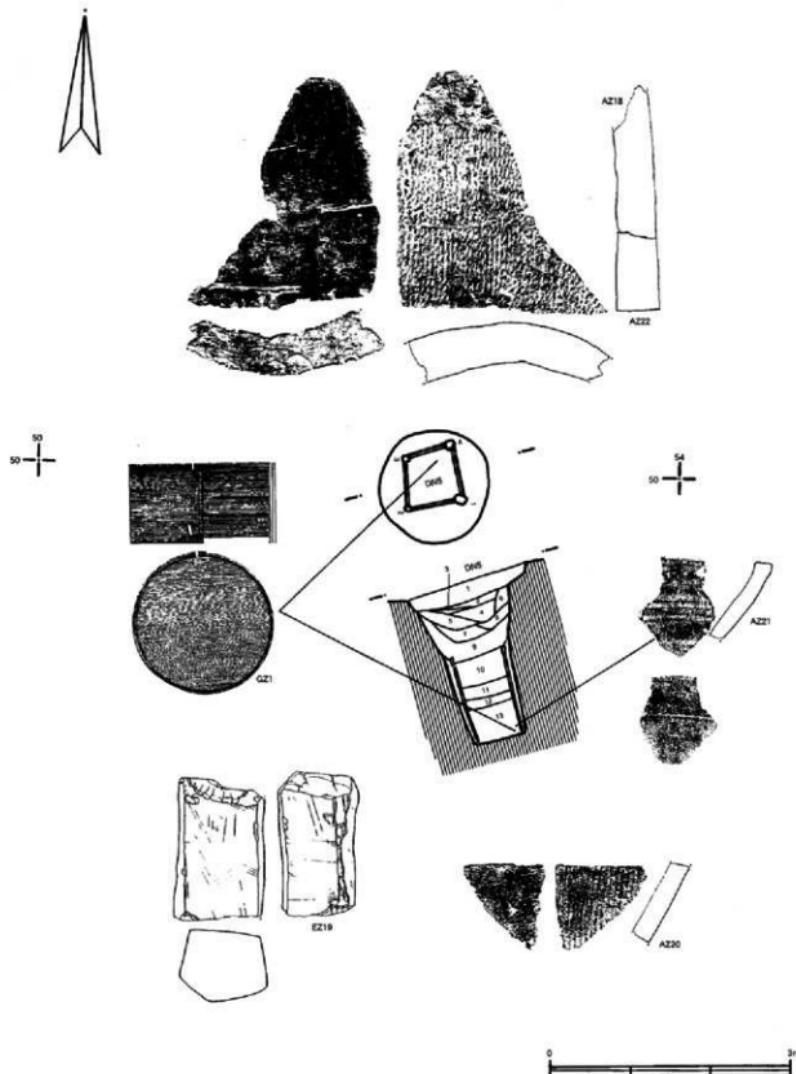
第8図 街道西下遺跡遺構平面図(4) KY9・DY12



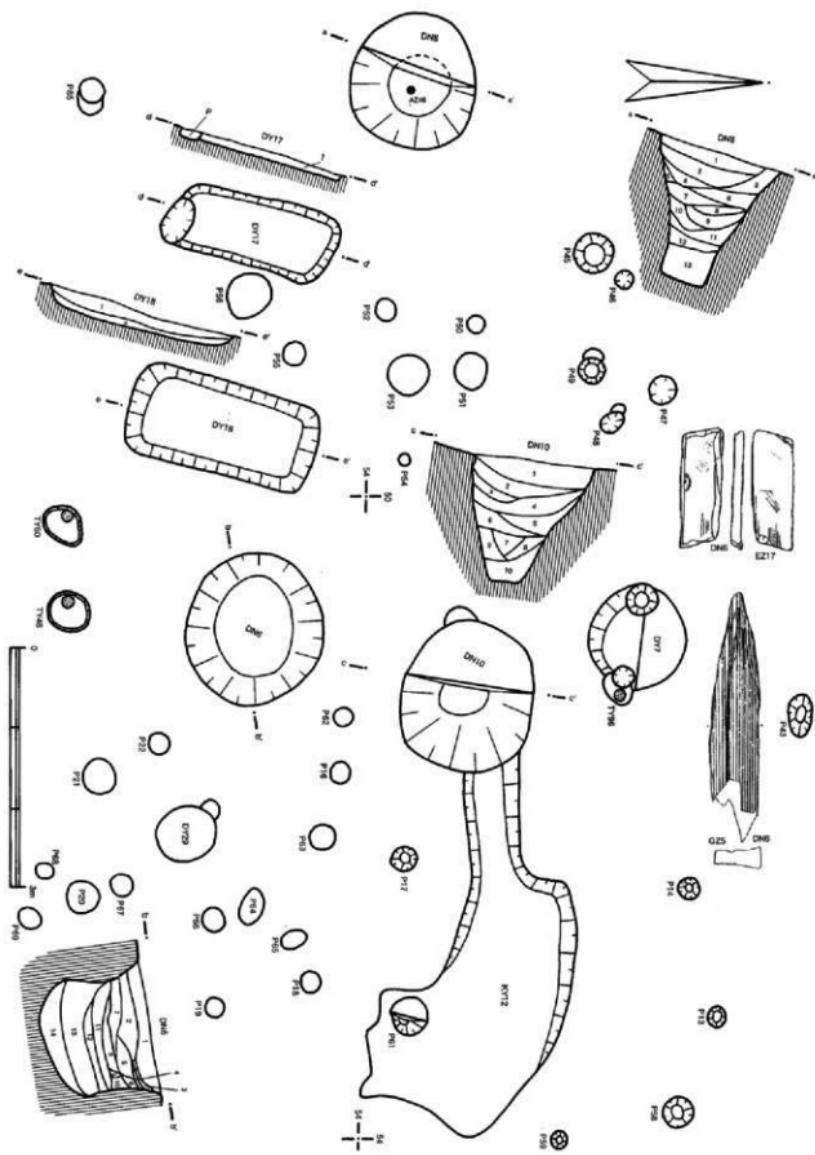
第9図 街道西下遺跡遺構平面図 (5) KY4・5



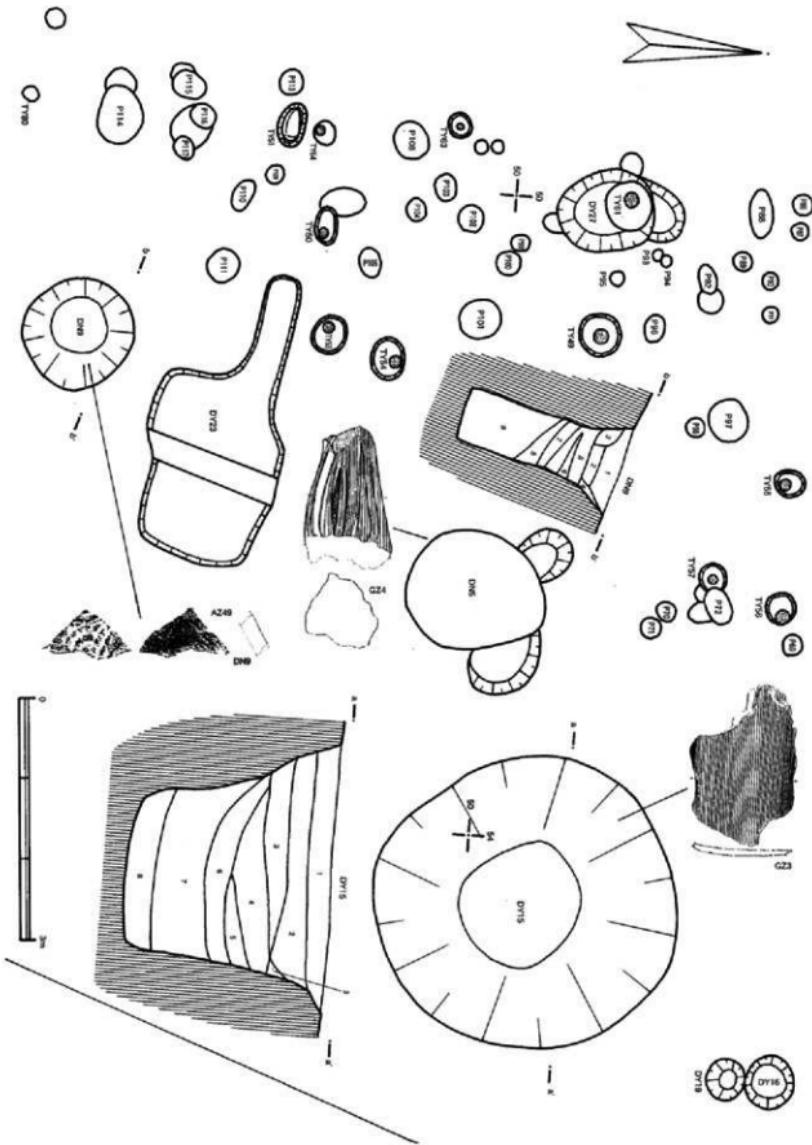
第10図 街道西下遺跡遺構平面図 (6) KY3・6



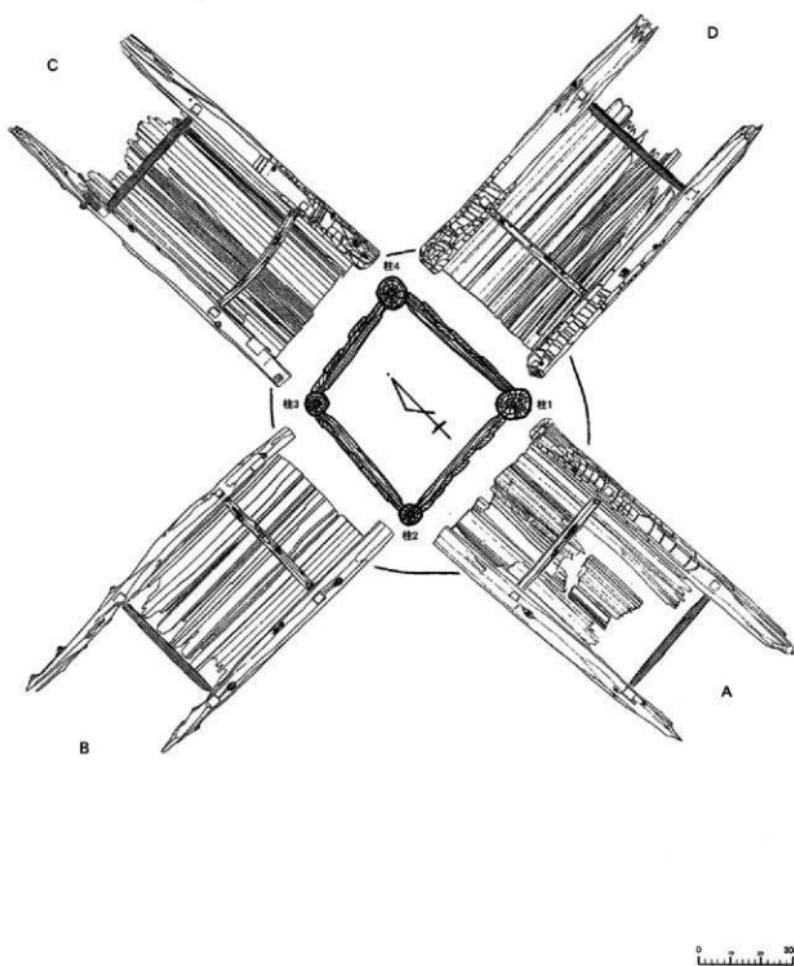
第11図 街道西下遺跡遺構平面図 (7) DNS



第12図 街道西下遺跡遺構平面図(8) DN6他



第13図 街道西下遺跡遺構平面図 (9) DY15他



第14図 街道西下遺跡枠組み展開図 DN5

小型で深い形態の覆土も人工堆積であるが、遺物はほとんど認められなかった。これらの他に、小型で浅い土壇には土師器片が覆土に混入していた。両者とも配置関係や遺物量の資料が少なく、構築目的が不明瞭である。

○井戸跡

調査区の北東部地域に集中して構築された井戸跡で、平面形状は円形状を呈する。DN 5・6・8～10の5基が認められ、最深はDN 9の195cm、浅いのはDN 6で133cm、他の3基は165cm前後と一定している。掘り方は上端の長径で平均160cmを測るが、保存状況の良好なDN 9は110cmであり、他の井戸は上端が崩落し、広がったと考えられる。

上端から底面に向かうに従って狭くなり、60～70cmとなる。DN 6は底面でも160cmあるがこれは、崩落した状態と考えられる。5基の井戸跡の覆土は人工堆積状況を示していた。

DN 5を除く各井戸跡の覆土出土遺物は少量であり、内部施設も認められなかった。第11図は、DN 5の平面図及び断面図であり、唯一内部施設が残存していた。この図には、覆土から出土した遺物も示しており、平瓦、須恵器甕片、須恵系陶器、砾石、曲物がある。

第14図には、内部施設である柱を中心とした井戸枠の状況を展開図で示したものである。第11図の断面図で示すように、柱材4本は上場から85cm掘り下げた箇所で検出された。その面で平瓦が出土している。この遺物は奈良時代のものであり、この井戸跡の年代を示すものではない。これより下層から須恵系陶器片が出土しているからである。

第11図に示した実線の円形プランは、板材を取り上げる際に確認した掘り方のプランである。直径145cmの円形に掘り込んで、柱を設置後に上下に柄穴を16箇所設けて、8本の横木を柄穴に固定して木組みを作り、周囲の土砂崩れを防ぐ目的で、板材を用い第14図で示す構造に仕上げている。

柱材は本来、上部施設として機能していたと想定される。4本の柱は底面に設置された状態で検出され、底面からは第21図1の曲物が出土している。

板材は、柱材の外側にあたる壁面全体に配置され総数で約40枚を数える。板材と板材の隙間の壁面にも認められ、隙間なく配されている。

DN 9は第13図で示すように、最下層の9層が大半を占める層位であり、9層は柔らかい泥炭層に青褐色粘土が少量混入する層位であった。これは、水位が高く埋められた後も湧き水があった状態を示すものと判断される。

○柱穴・ピット

柱穴は、掘立建物跡を構成する柱穴以外のもので、底面に自然礫を伴わない形状が大半であった。また、第13図の柱穴の様に柱根を有するものが12基認められた。ピットは、覆土から判断して年代幅を持って構築されたと考えられる。

IV 出土遺物

今回の調査区からは、竪穴住居跡を中心に遺構に伴う出土状況が多く、遺構確認面が水田として開墾の際に削平されたことを示している。総数は427点で、羽口片136点、鉄滓80点の合計216点で精錬関係の遺物が最も多く出土している。次には土師器甕片が174点認められた。また、木器類ではDN5の井戸跡から出土した建築部材があり、板材の39点を含め総数52点であった。

これらの遺物群について、実測図や拓本が可能な98点を第15図～第29図の挿図に示し、詳細については、第1表を作成した。以下に年代別に分類し説明する。

○縄文時代の遺物

第15図1～4の剥片石器で、硬質頁石を素材に用いた縦長剥片の縁辺に簡単な二次調整を加えて整形した形態である。使用痕は認められなかった。出土地点としては竪穴住居跡や溝状遺構からであるが、遺構の年代から考慮してこれらの遺構に伴う剥片石器ではなく、後世に流れ込んだものと考えられる。

○古墳時代の遺物

この時期の明瞭な遺物は認められなかった。

○奈良時代の遺物

出土地点としては、HY1・2、器種別では土師器甕片174点、須恵器甕片7点、須恵器壺2点、須恵器高台壺1点、内黒土師器塊1点、土師器壺2点、器台脚部1点があり土師器甕片を除き少數である。他に布目瓦7点が井戸跡や溝状遺構から出土している。竪穴住居跡以外は、剥片石器と同様に後世に混入したものと考えられる。

第16図1は、唯一復元した土師器の甕で口径24cm、器高は33cmを測る。器面は磨滅が著しく調整は不明である。HY1の床面から出土であり、破片としては、87点認められた。他に床面から、須恵器壺片1点、両黒土師器壺1点がある。

HY2の床面からは、土師器甕片78点、土師器甕片底部8点、土師器高壺1点が出土しているが何れも小破片で占められる。

須恵器甕片は、第7図1～5・6・7であり表裏に叩き痕が認められる。同図2を除き胴部の破片である。須恵器壺は第16図2と第17図9であり、底部はヘラ調整で仕上げられている。同図8は須恵器高台壺で、掘立柱建物跡を構成するTY12の上面から出土した。底面に煤が付着しており、灯明皿として使用されたと考えられる。

内黒土師器塊は、第16図5であり割れて出土したがほぼ完形に近い形態に復元出来た。HY1床面の出土で、内面の底部近くに緩やかな段を有する。土師器壺は、同図3・4であり、3は皿に近い形態を有し、両者とも磨滅が著しく調整は不明であった。器台脚部は同図6であり、意図的に壊された状態で出土している。胎土は洗練された粘土を用いて製作したと推測され、共存する土師器とは異質な感じを与える

焼成である。他に脚部の破片は出土していないことから、残りの破片は他の場所に遺棄された可能性が高いと推測される。

第18・19図に示したのが布目瓦であり、第18図1～3の3点が平瓦、第19図1～4の4点が軒瓦で、破片で占められる。

出土地点としては、調査区の南東部に位置する溝状遺構KY4の覆土から、第18図3、第19図1・3・4の4点が最も多く出土している。各出土地点については、第9図に黒点で示した。層位としては、底面に近い3層からである。

次には、州浜形溝状遺構の南西に位置するDY12からで、第18図1と第19図の2点がある。残りの1点は、内部施設が残っていた井戸跡のDN5の覆土からで、出土時点では2点であったが洗浄後に接合することが判明した。層位としては、9層からの出土であった。

平瓦3点の厚さは、1が2.82cm、2は3.65cm、3が3.42cmを測り、2が最も厚みがある。緑灰色の色調で焼成は良好、表面に縄目の叩き目痕、裏面に布目痕を有す。接合した2は、重弧文軒平瓦であり、裏面が再利用され磨滅している。

軒瓦4点の厚さは、1が2.10cm、2は2.00cm、3が2.18cm、4は1.75cmを測り平瓦に比べると厚みは薄く整形されている。色調は同様であり、表面に縄目の叩き痕を有するのは、1だけである。他の表面はヘラ調整によって整形されている。裏面の布目痕は平瓦と同様である。

これらの布目瓦は、胎土や色調等から飛鳥時代の遺物であるが、出土地点の各遺構年代を示す資料ではないことは、共存する遺物から判断して明らかである。従って、今回の調査区以外から搬入されたと考えられる。

○中世の遺物

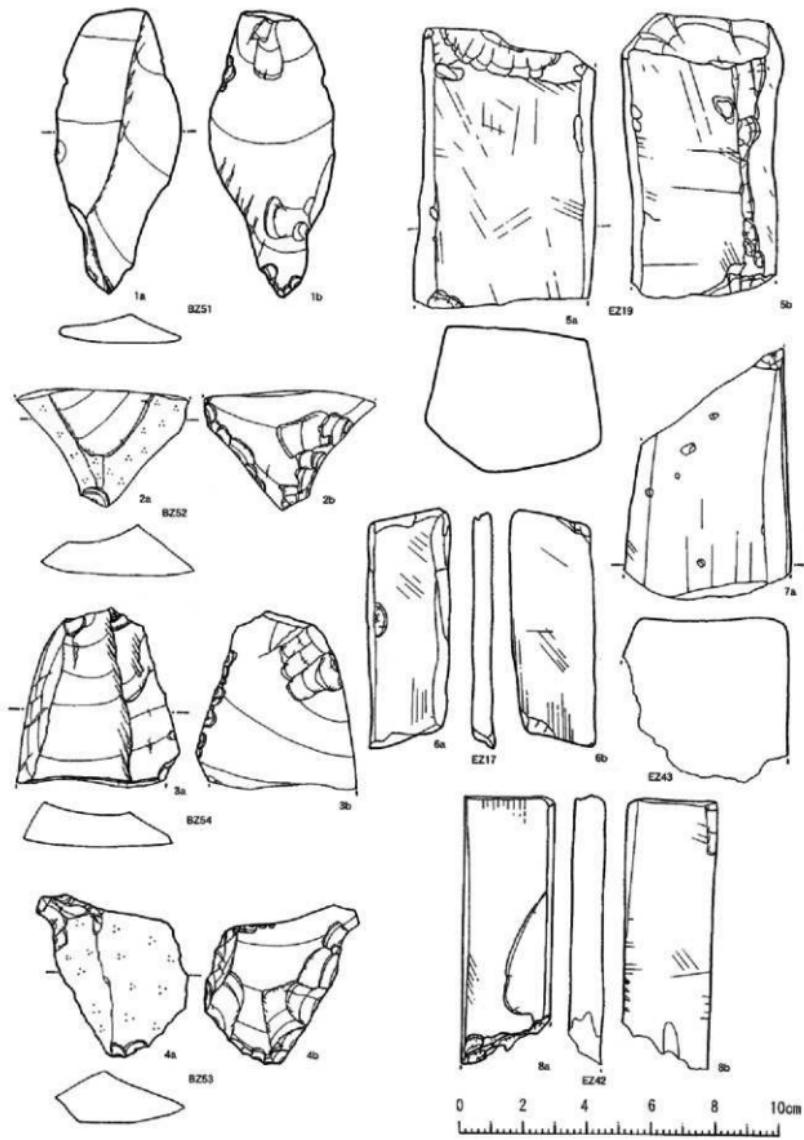
第20図に示した9点が中世陶磁器群である。暗赤褐色の瓷器系陶器が、同図4・7・7・8の3点、青灰色の須恵系陶器が同図1～3・6・9の5点がある。出土地点としては、KY9から3点、DY4・12・DN5・KY3B・KY4からであった。

器形としては、同図1・6・5・9が須恵器系擂鉢、2は須恵系鉢、3は須恵系壺の破片であり、1・5は擂鉢底部であり使用による磨減面を有する。瓷器系陶器の4・7は壺形、8は鉢形の破片である。これらの遺物は、中世窯で焼成されたもので隣県から搬入されたと推測される。

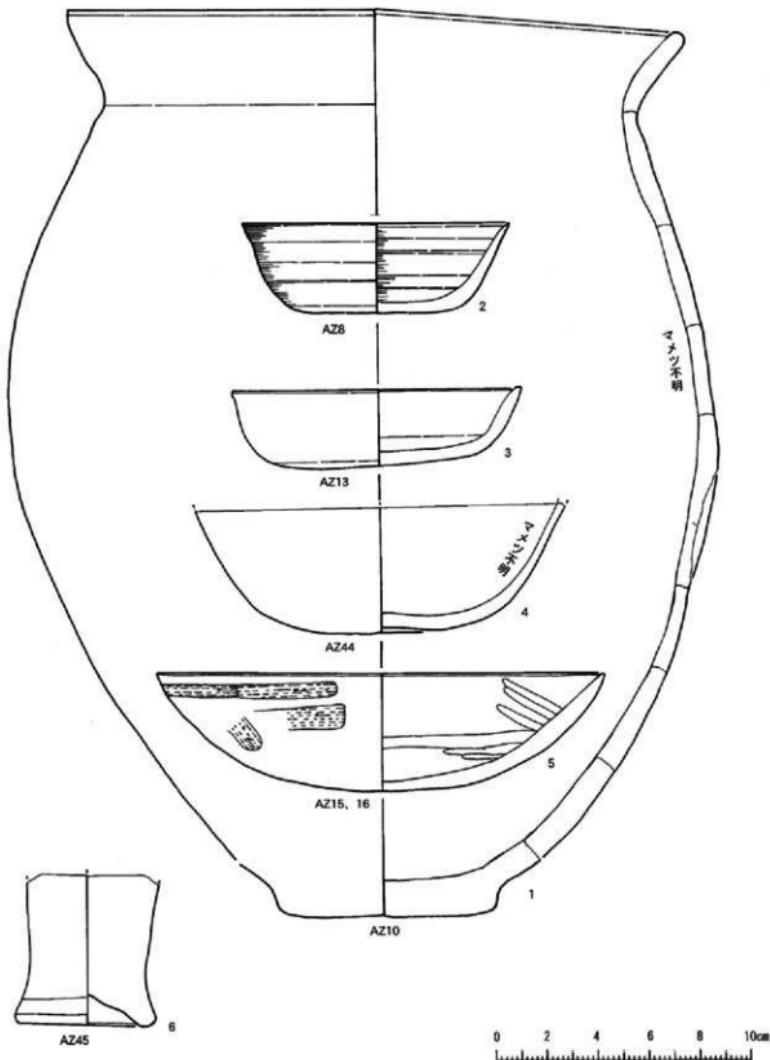
木器は、建築部材と曲物に大別される。前者はDN5から一括して出土したもので、第22図～第28図に示した。使用された木材の樹木名は、特定できなかった。第23図1の柱材は、柄の箇所が多いことや釘が刺さっていることから、再利用した柱材と考えられる。

第21図1がDN5底面出土の曲物であり、完形品である。留め具として桜の樹皮を使用している。

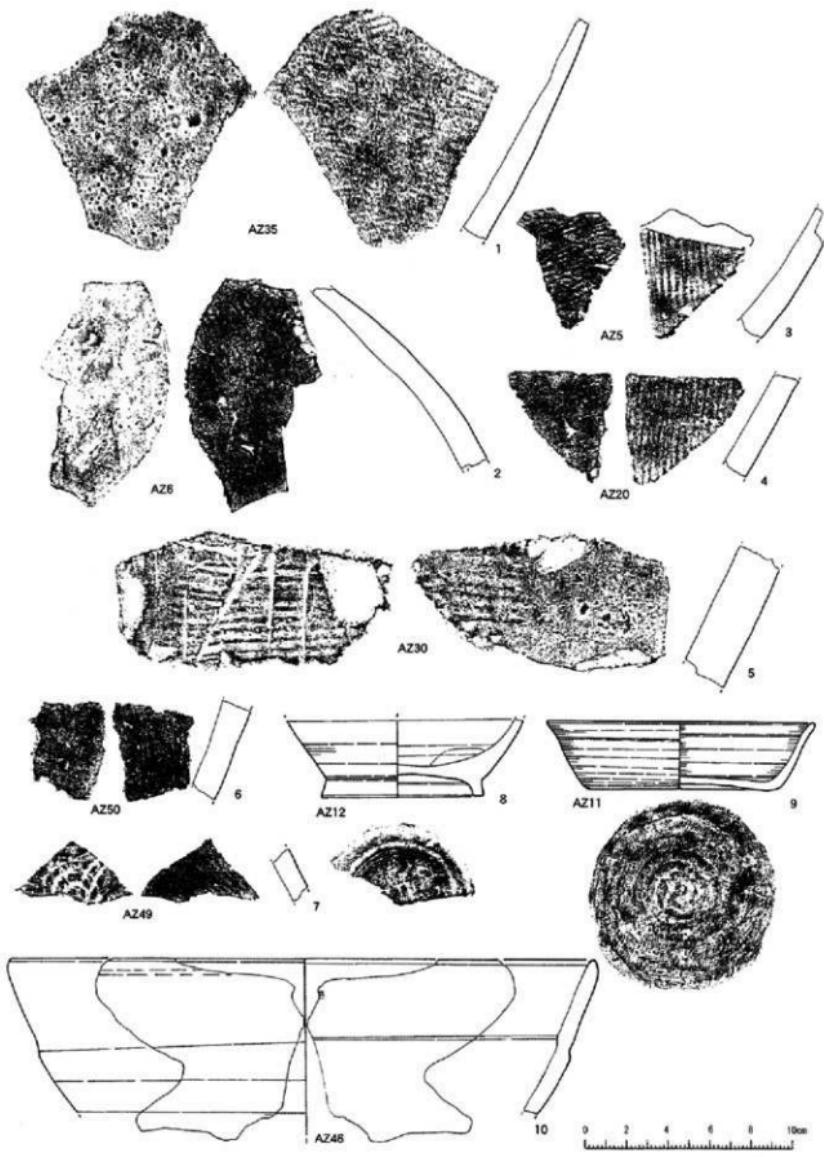
第29図は、KY4底面出土の宝珠である。石材は米沢市の北西部に位置する石切



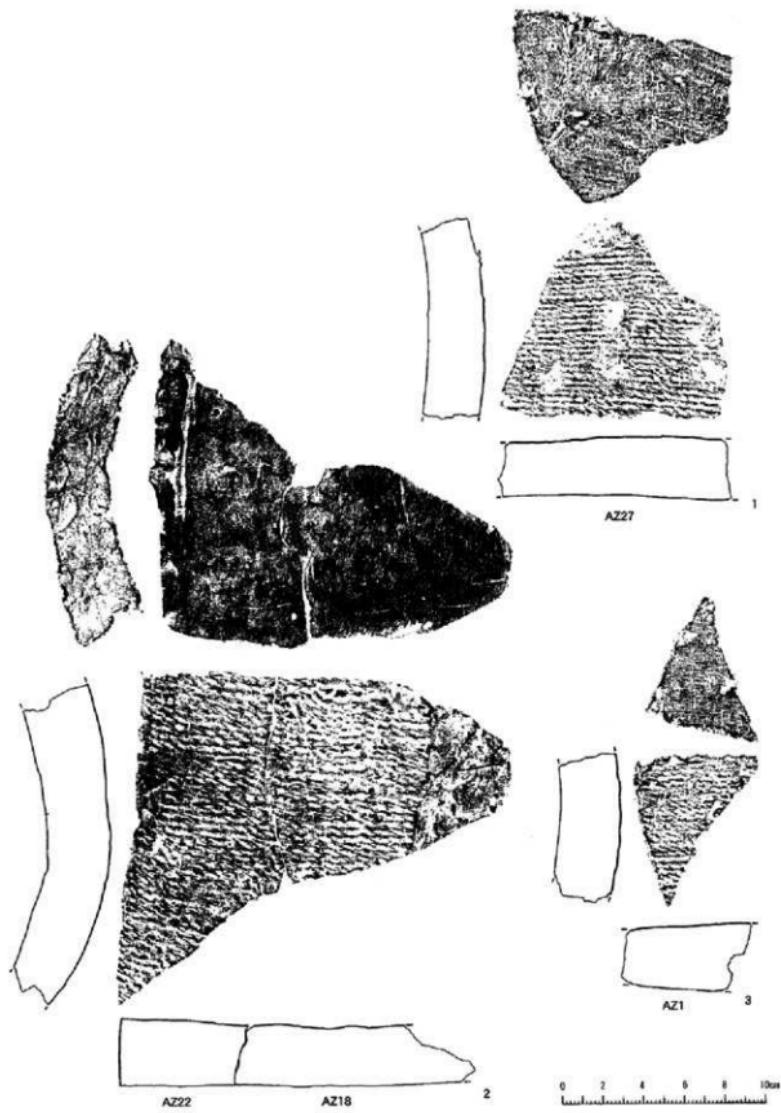
第15図 街道西下遺跡出土遺物実測図（石器・砥石）



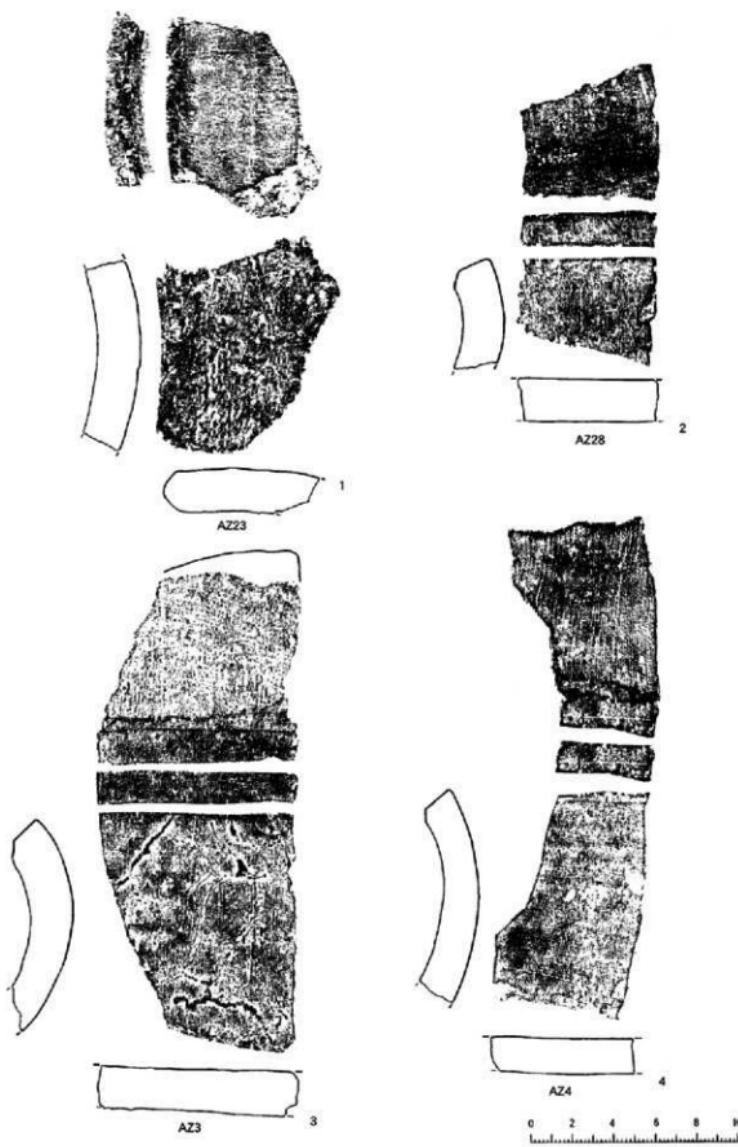
第16図 街道西下遺跡出土遺物実測図（土師器）



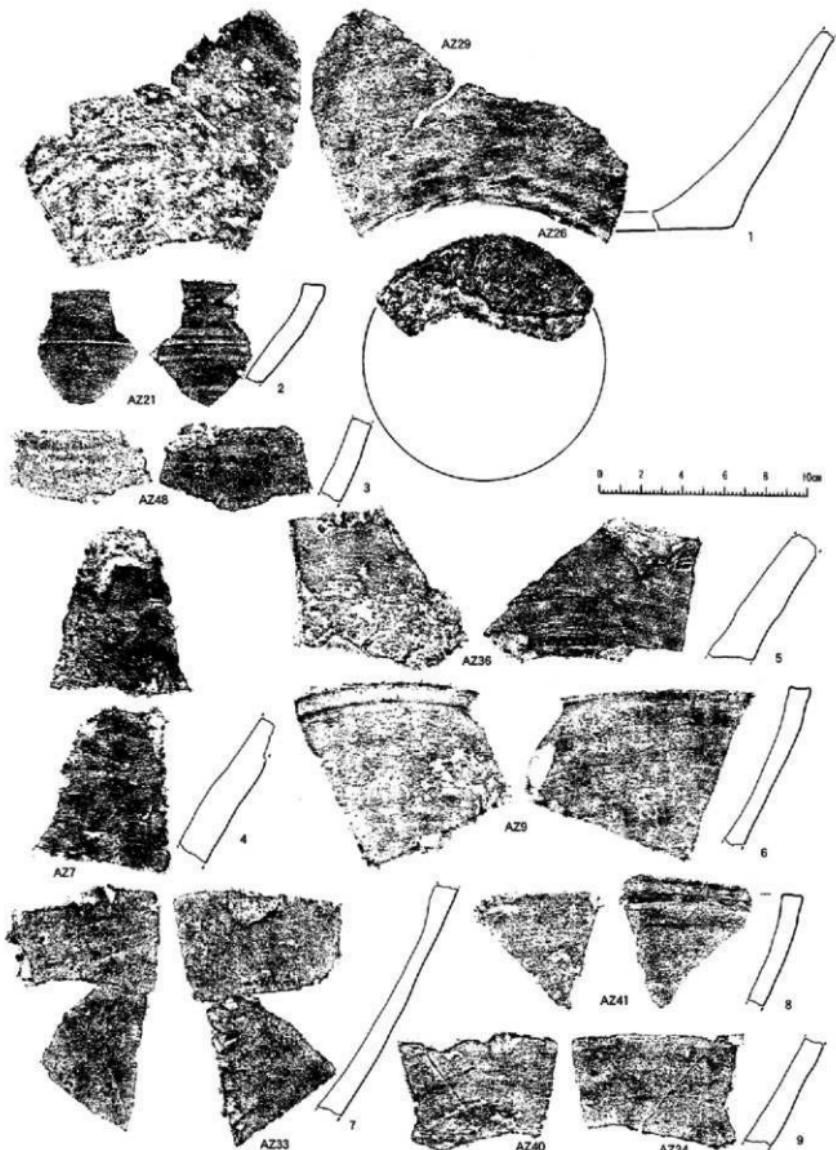
第17図 街道西下遺跡出土遺物実測、拓影図（須恵器）



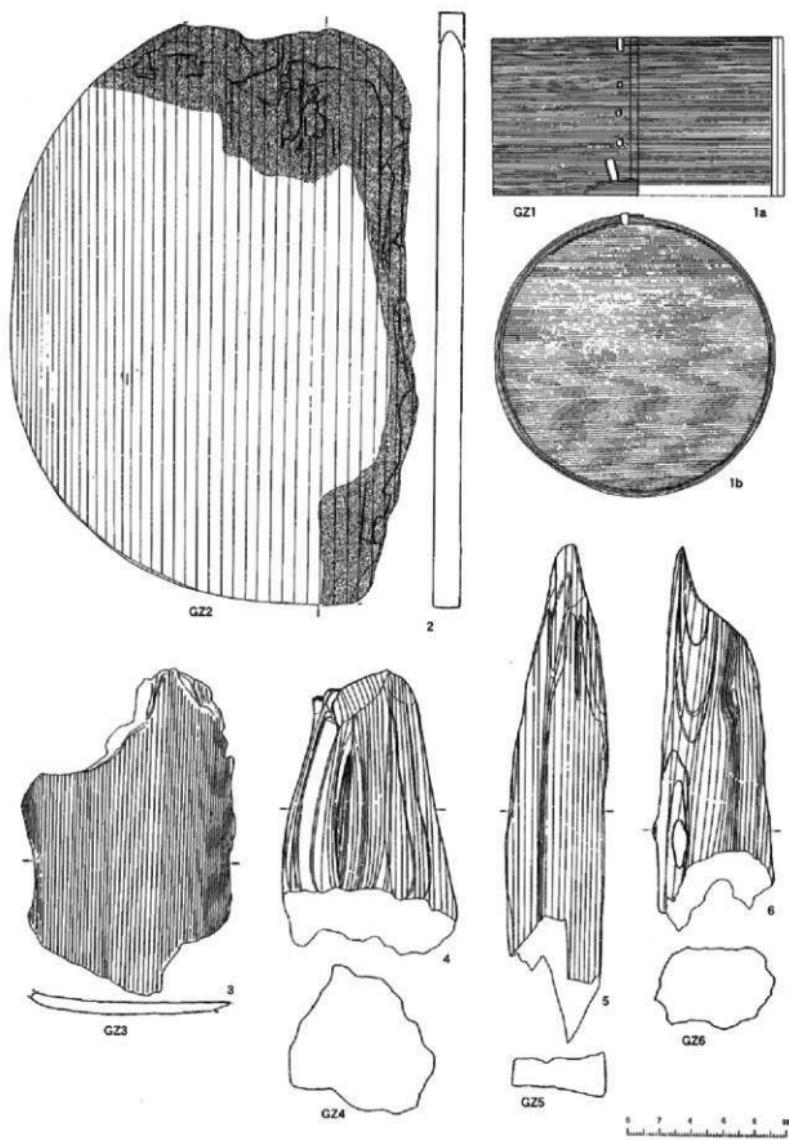
第18図 街道西下遺跡出土遺物拓影図（瓦）



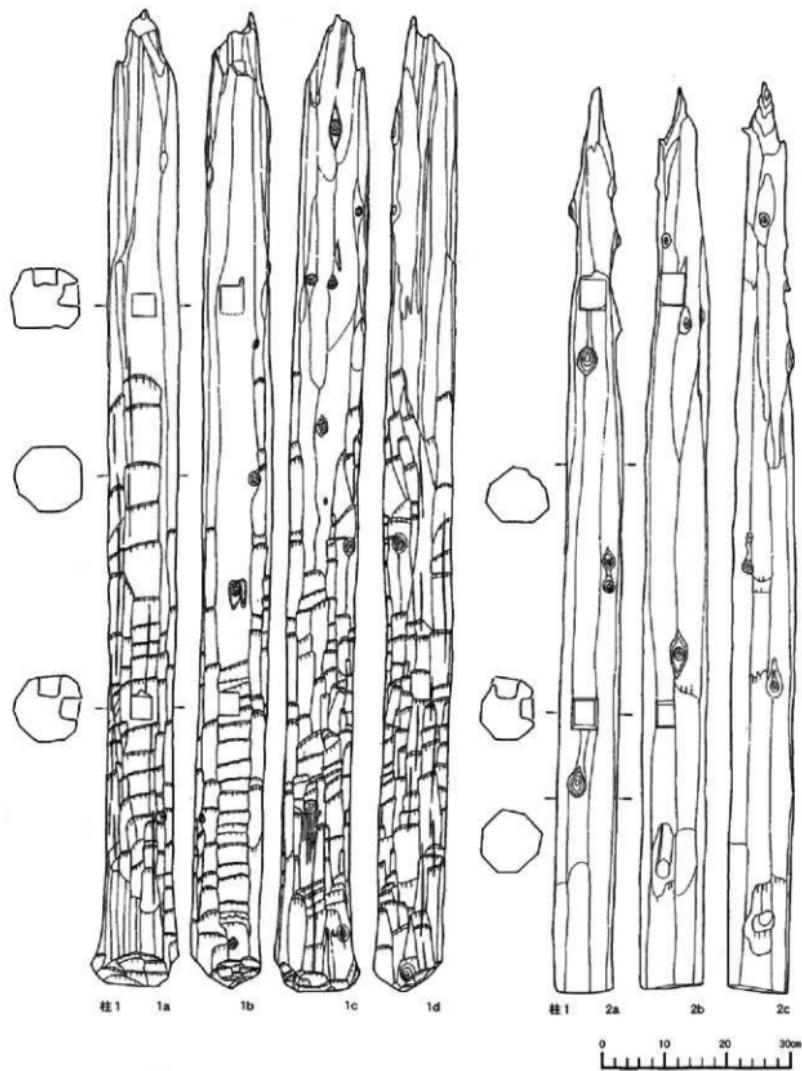
第19図 街道西下遺跡出土遺物拓影図（瓦）



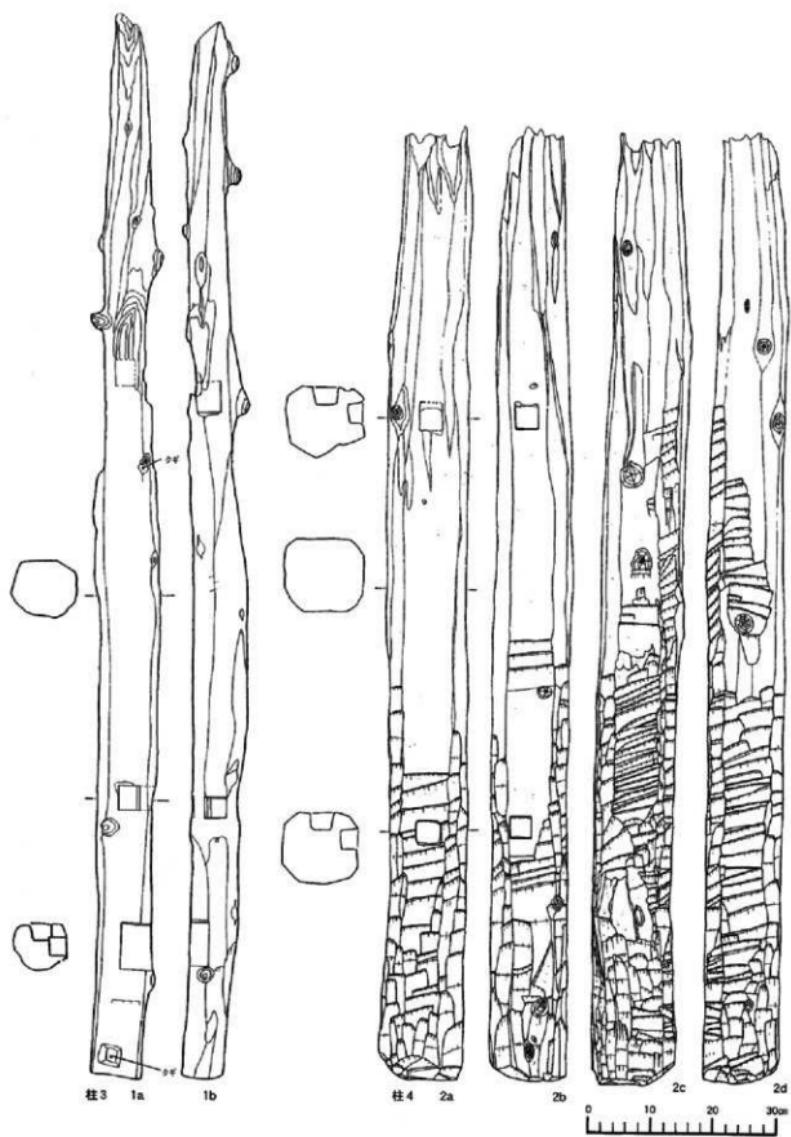
第20図 街道西下遺跡出土遺物拓影図（中世陶器）



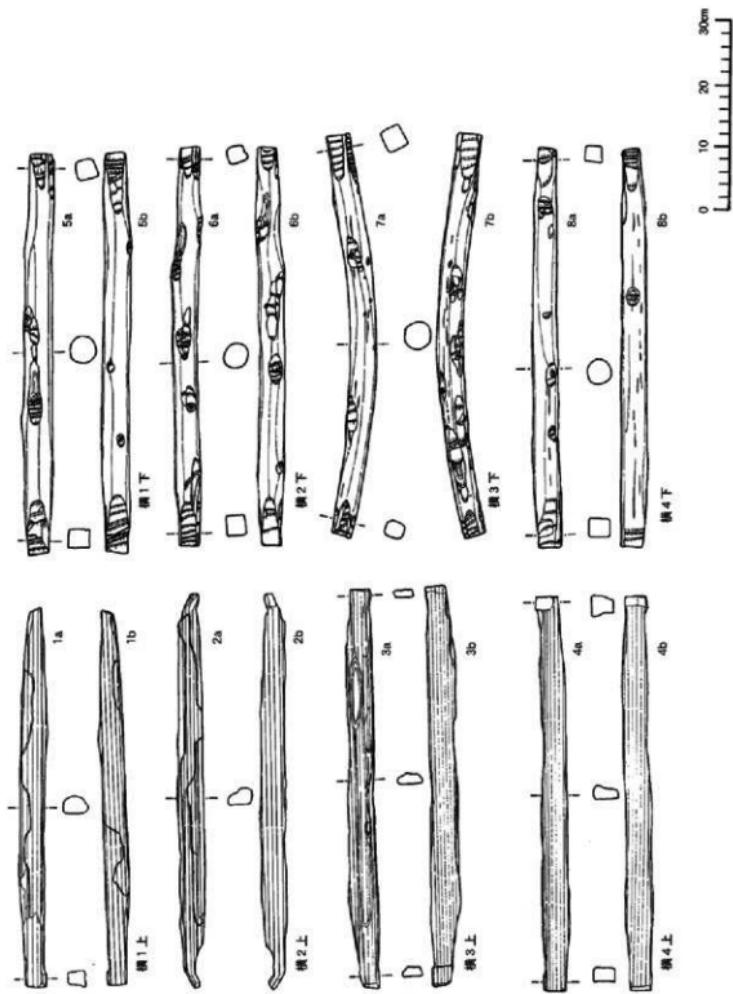
第21図 街道西下遺跡出土遺物実測図（木器）



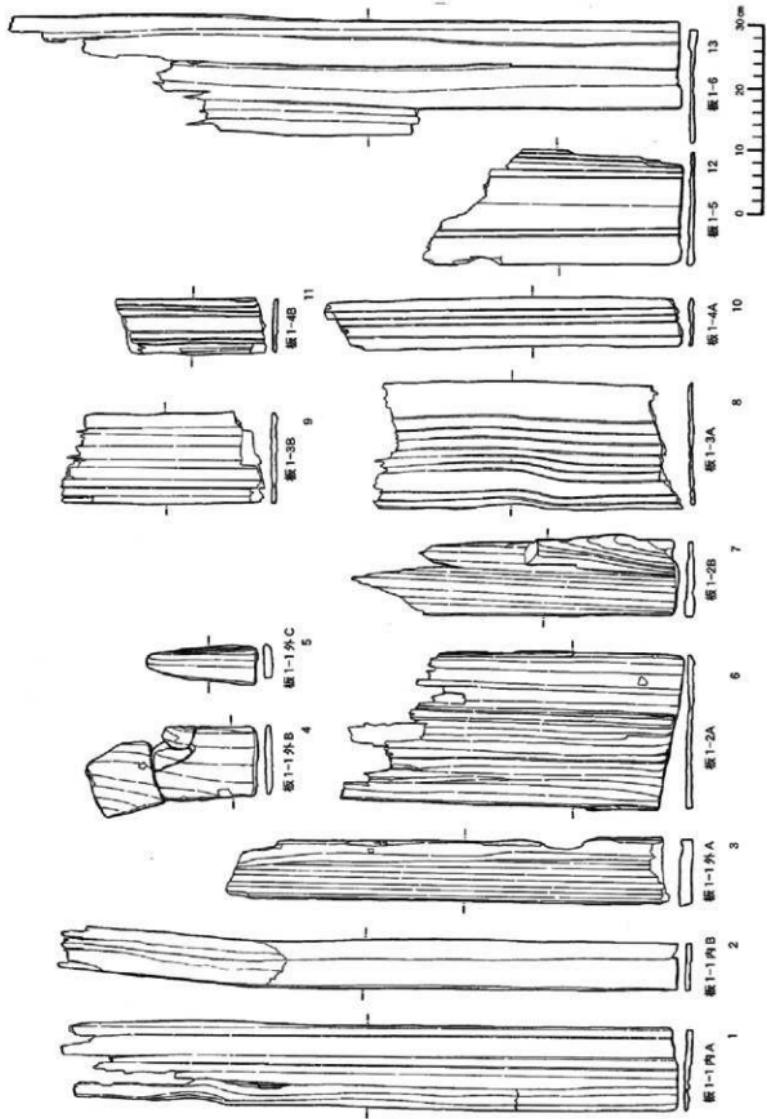
第22図 街道西下遺跡出土遺物実測図（柱）



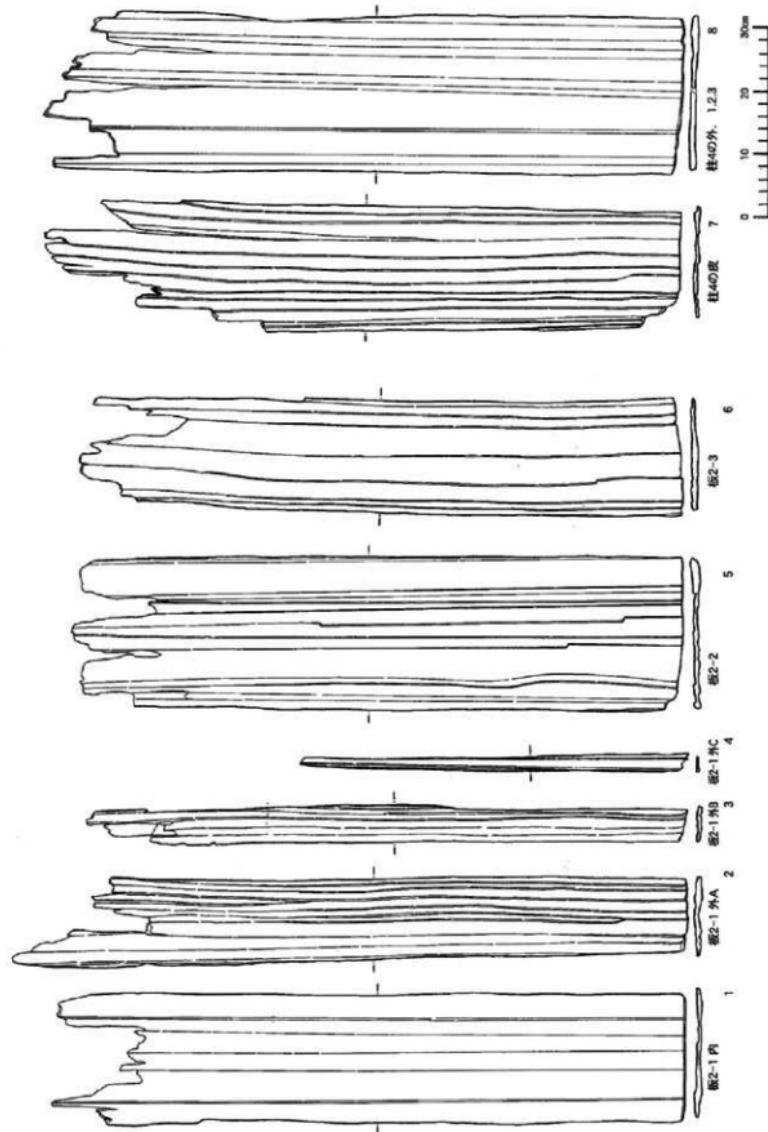
第23図 街道西下遺跡出土遺物実測図（柱）



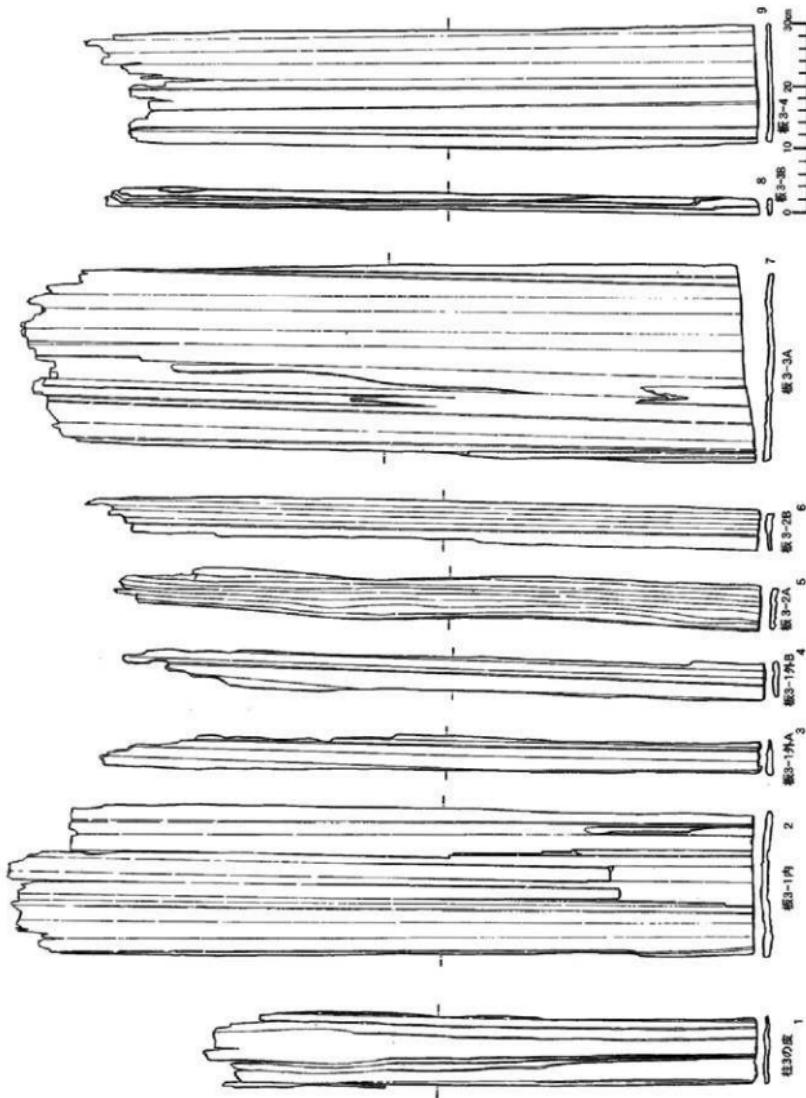
第24図 街道西下遺跡出土遺物実測図（横木）



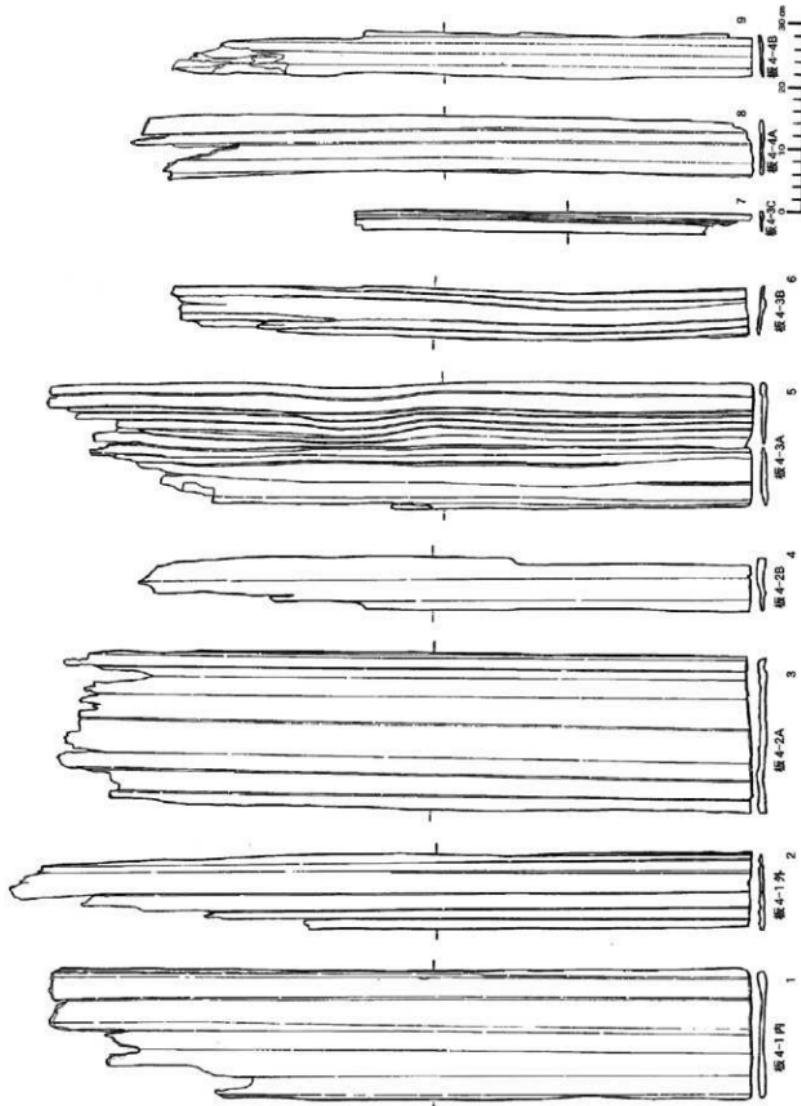
第25図 街道西下遺跡出土遺物実測図（板）



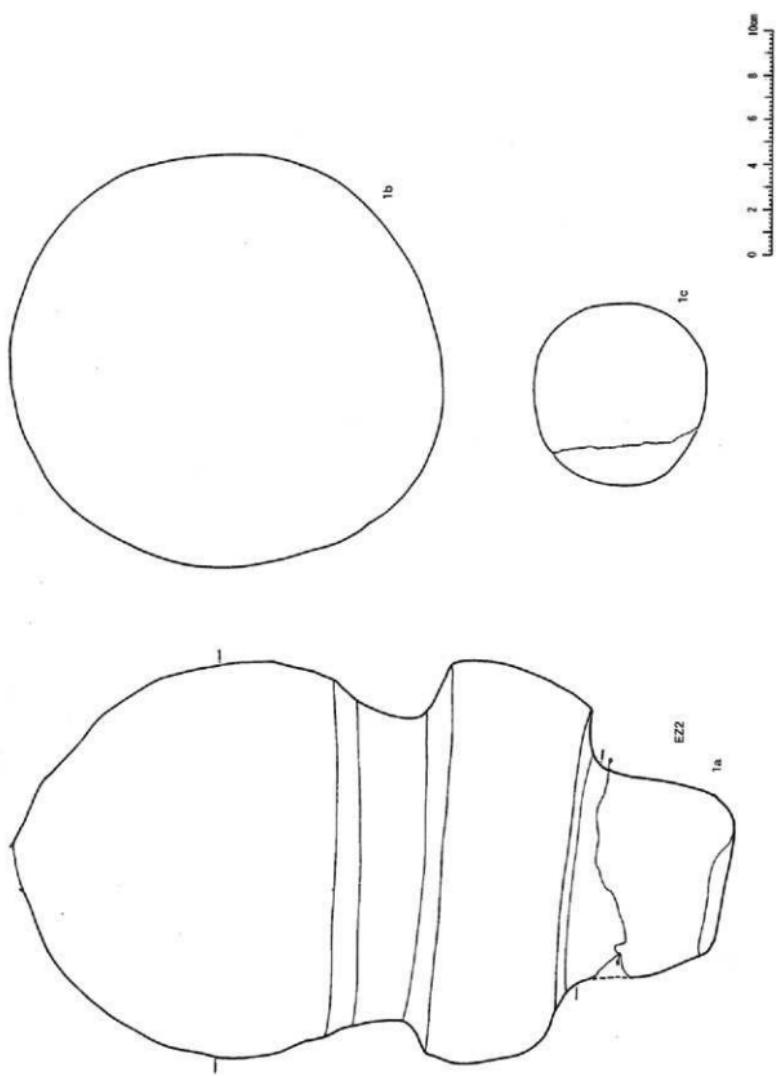
第26図 街道西下遺跡出土遺物実測図（板）



第27図 街道西下遺跡出土遺物実測図（板）



第28図 街道西下遺跡出土遺物実測図（板）



第29図 街道西下遺跡出土遺物実測図（宝珠）

第1表 街道西下遺跡出土遺物一覧表

No.	捲図番号	図版番号	遺物名	遺物番号	出土地区	時期	備考
1	第15図	1	剥片	BZ51	G42-42	縄文	二次調整有り
2	第15図	2	剥片	BZ52	HY1f	縄文	二次調整有り
3	第15図	3	剥片	BZ54	KY4f	縄文	二次調整有り
4	第15図	4	剥片	BZ53	KY4f	縄文	二次調整有り
5	第16図	1	第6図 1 土師器壺	AZ10	HY1	奈良	
6	第16図	2	須恵器壺	AZ 8	G50-62	奈良	
7	第16図	3	土師器皿	AZ13	HY1	奈良	
8	第16図	4	土師器壺	AZ44	KY2	奈良	
9	第16図	5	第6図 2 内黒土師器壺	AZ15-16	HY1	奈良	接合
10	第16図	6	器台脚部	AZ45	HY1	奈良	
11	第17図	1	第8図 1 須恵器片	AZ35	KY9	奈良	
12	第17図	2	第8図 4 須恵器片	AZ 6	KY3	奈良	
13	第17図	3	第8図 2 須恵器片	AZ 5	KY3	奈良	
14	第17図	4	第8図 5 須恵器片	AZ20	DN5 ベルト北側	奈良	
15	第17図	5	第8図 7 須恵器片	AZ30	KY9	奈良	
16	第17図	6	第8図 3 須恵器片	AZ50	G40-42	奈良	
17	第17図	7	第8図 6 須恵器片	AZ49	DY9	奈良	
18	第17図	8	須恵器高台壺	AZ12	TY12	奈良	
19	第17図	9	第6図 3 須恵器壺	AZ11	HY1	奈良	
20	第17図	10	第8図 8 土師器鉢	AZ46	DY8E	奈良	
21	第18図	1	第5図 4 平瓦	AZ27	DY12	奈良	
22	第18図	2	第5図 1 平瓦	AZ18-22	DN5	奈良	接合 重伝文軒平瓦
23	第18図	3	第5図 2 平瓦	AZ 1	KY4 2F	奈良	
24	第19図	1	第5図 3 軒瓦	AZ23	KY4	奈良	
25	第19図	2	第5図 6 軒瓦	AZ28	DY12	奈良	
26	第19図	3	第5図 5 軒瓦	AZ 3	KY4 3F	奈良	
27	第19図	4	第5図 7 軒瓦	AZ 4	KY4 底面	奈良	
28	第15図	5	砥石	EZ19	DN5	中世	石英粗面岩
29	第15図	6	砥石	EZ17	DN6	中世	石英粗面岩
30	第15図	7	砥石	EZ43	DY13	中世	石英粗面岩
31	第15図	8	砥石	EZ42	TY39	中世	石英粗面岩
32	第20図	1	第8図 10 中世陶器	AZ26-29	DY12	中世	接合
33	第20図	2	第8図 15 中世陶器	AZ21	DN5 底面	中世	
34	第20図	3	第8図 16 中世陶器	AZ48	DY4	中世	
35	第20図	4	第8図 12 中世陶器	AZ 7	KY4 ベルト	中世	
36	第20図	5	第8図 14 中世陶器	AZ36	KY9	中世	
37	第20図	6	第8図 9 中世陶器	AZ 9	KY3B	中世	
38	第20図	7	第8図 13 中世陶器	AZ33	KY9	中世	
39	第20図	8	第8図 11 中世陶器	AZ41	KY9	中世	
40	第20図	9	第8図 17 中世陶器	AZ34-40	KY9	中世	接合
41	第21図	1	第6図 4 曲物	GZ 1	DN5	中世	完形
42	第21図	2	底板	GZ 2	DY1	中世	焼成面有り
43	第21図	3	底板	GZ 3	DY15	中世	
44	第21図	4	柱根	GZ 4	DY5 わき	中世	
45	第21図	5	柱根	GZ 5	DY6	中世	
46	第21図	6	柱根	GZ 6	TY14	中世	

No.	掲図番号	図版番号	遺物名	遺物番号	出土地区	時期	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備考
47	第22図	1	第7図A 柱	柱1	DN5	中世	156	14	10	
48	第22図	2	第7図B 柱	柱2	DN5	中世	138	9	9	
49	第23図	1	第7図C 柱	柱3	DN5	中世	164	9	8	釘有り
50	第23図	2	第7図D 柱	柱4	DN5	中世	149	12	13	
51	第24図	1	第7図A 横木	横1上	DN5	中世	60	3	3	
52	第24図	2	第7図B 横木	横2上	DN5	中世	63	5	3	
53	第24図	3	第7図C 横木	横3上	DN5	中世	64	3	1	
54	第24図	4	第7図D 横木	横4上	DN5	中世	63	4	3	
55	第24図	5	第7図A 横木	横1下	DN5	中世	64	3	4	
56	第24図	6	第7図B 横木	横2下	DN5	中世	63	3	4	
57	第24図	7	第7図C 横木	横3下	DN5	中世	64	3	4	
58	第24図	8	第7図D 横木	横4下	DN5	中世	63	3	4	
59	第25図	1	第7図A 板	板1-1内A	DN5	中世	102	19	0.5	
60	第25図	2	第7図A 板	板1-1内B	DN5	中世	97	11	0.5	
61	第25図	3	板	板1-1外A	DN5	中世	70	11	2	
62	第25図	4	板	板1-1外B	DN5	中世	26	11	1.5	
63	第25図	5	板	板1-1外C	DN5	中世	18	6	1.2	
64	第25図	6	第7図A 板	板1-2A	DN5	中世	51	25	0.5	
65	第25図	7	第7図A 板	板1-2B	DN5	中世	52	14	1.5	
66	第25図	8	第7図A 板	板1-3A	DN5	中世	50	19	0.5	
67	第25図	9	第7図A 板	板1-3B	DN5	中世	32	15	0.5	
68	第25図	10	第7図A 板	板1-4A	DN5	中世	57	8	0.5	
69	第25図	11	第7図A 板	板1-4B	DN5	中世	23	9	0.5	
70	第25図	12	第7図A 板	板1-5	DN5	中世	40	18	0.5	
71	第25図	13	第7図A 板	板1-6	DN5	中世	107	19	1	
72	第26図	1	第7図B 板	板2-1内	DN5	中世	105	21	0.5	
73	第26図	2	板	板2-1外A	DN5	中世	109	14	0.8	
74	第26図	3	板	板2-1外B	DN5	中世	97	6	0.6	
75	第26図	4	板	板2-1外C	DN5	中世	62	3	0.3	
76	第26図	5	第7図B 板	板2-2	DN5	中世	97	25	1	
77	第26図	6	第7図B 板	板2-3	DN5	中世	97	19	0.8	
78	第26図	7	板	柱4の皮	DN5	中世	102	20	0.7	
79	第26図	8	板	柱4の外1,2,3	DN5	中世	102	25	7	
80	第27図	1	板	柱3の皮	DN5	中世	99	11	4	
81	第27図	2	第7図C 板	柱3-1内	DN5	中世	119	23	0.8	
82	第27図	3	板	柱3-1外A	DN5	中世	105	5	0.5	
83	第27図	4	板	柱3-1外B	DN5	中世	102	6	0.5	
84	第27図	5	第7図C 板	板3-2A	DN5	中世	102	7	0.8	
85	第27図	6	第7図C 板	板3-2B	DN5	中世	108	7	0.5	
86	第27図	7	第7図C 板	板3-3A	DN5	中世	116	30	1	
87	第27図	8	第7図C 板	板3-3B	DN5	中世	106	3	0.3	
88	第27図	9	第7図D 板	板3-4	DN5	中世	108	18	0.5	
89	第28図	1	第7図D 板	板4-1内	DN5	中世	112	21	0.8	
90	第28図	2	板	板4-1外	DN5	中世	119	12	0.5	
91	第28図	3	第7図D 板	板4-2A	DN5	中世	111	24	0.1	
92	第28図	4	第7図D 板	板4-2B	DN5	中世	97	9	0.5	
93	第28図	5	第7図D 板	板4-3A	DN5	中世	113	16	0.5	
94	第28図	6	第7図D 板	板4-3B	DN5	中世	92	8	0.3	
95	第28図	7	第7図D 板	板4-3C	DN5	中世	57	4	0.2	
96	第28図	8	第7図D 板	板4-4B	DN5	中世	94	7	0.5	
97	第28図	9	第7図D 板	板4-4A	DN5	中世	100	8	0.5	
98	第29図	1	第6図5 宝珠	E Z 2	KY4 2F	中世	長さ19.5cm 直径32cm			

山産出を用い、図で示す形態に加工している。石塔の頂上に載せる宝珠であり、一部が自然崩落している。

V まとめ

今回の調査区からは、縄文時代～中世にわたる遺物、遺構を検出した。これらの各時期の様相について述べ、まとめとする。

○縄文時代

土器が認められなかったことから、時期を特定することが出来なかった。出土した石器は少量であったが、周囲の立地を考慮すれば、東西を小河川に挟まれた場所にあたり、ピットの存在からも集落地として位置づけられる。

○古墳時代

墓壇と想定される。2基が並列した遺構であり、周辺にこの時代の集落地が点在すると考えられる。墳丘の存在を示す痕跡は認められなかった。

○奈良時代

2棟の竪穴住居跡が検出され、床面からまとまった遺物が出土している。床面からの柱穴は検出されず、またカマドも認められなかった。柱穴は4本を基本とする場合が多く、2本の場合もあるが今回のように全く認められないのは、当市において初めての例である。時期は、出土した遺物から奈良時代前葉に位置する。

布目瓦は、本遺跡の東南に位置する大浦遺跡群から出土例があるが、今回のように7点も出土したのは初めてである。遺物を実見した東北芸術工科大学の北野博司氏によると、山形県東置賜郡高畠町高安1574-5に所在する高安窯跡群で焼成された布目瓦の可能性が高いとのことであった。

竪穴住居跡に伴うとは考えられず、周辺に布目瓦を使用した建物群が存在するものと想定される。ちなみに、高安窯跡群は飛鳥時代と報告されている。

○中世

掘立柱建物跡や井戸跡、土壙、溝状遺構、土壙で構成される屋敷跡である。建物の南に位置する州浜形溝状遺構は、庇を有する掘立柱建物跡盛期の段階で構築されたと考えられる。

州浜の形状には諸説があるが、溝によって区画された土偶状の場所は、屋敷を守る神が降臨する聖地の意味があると考える。

井戸跡は、内部施設があるのは1基だけであった。これは、構築された最後の井戸跡と想定される。理由は、柱材に見られる再利用の部材から、他の井戸跡にも内部施設が存在したと考えられる。すなわち、水位が高く部材が腐りにくくことから内部施設に関しては、組合せ式に製作して移動し、部材の取替えを最小限にしていたと判断され、釘が一本も使用されていない構造である。

掘立柱建物跡として把握出来たのは2棟であったが柱穴の数から考慮すれば、少

なくとも3期～5期の存続期間が想定され、各時期に1基の割合で井戸跡が存在していたと考えられる。

出土した中世陶器から、屋敷が存在していた期間は14世紀中葉～15世紀前半と考えられる。本市では、中世窯は発見されていないが、須恵器系陶器としては近くの福島県飯坂毘沙門平、赤川の飯坂窯（12世紀～14世紀初）がある。瓷器系陶器としては宮城県の白石市東北、黒山、市ノ沢（13世紀末～14世紀）の窯があり、両者からの搬入が想定される。

遺物の出土数で最も多い羽口や鉄滓は、DY1・4・15・KY1を中心として出土しており屋敷の内部において、精錬が行われていたことを示唆している。居住する空間の他に、生産の場でもあった。

場所的には、河川にも近く川運の基地として、さらに字名の「街道西下」からも陸運も備えた要所に築かれた屋敷跡である。

文献では、伊達宗遠が置賜郡長井荘を押領する時期に当り、存続期間が短命な州浜形溝状遺構は、動乱の世を反映した時代の精神文化を示している。

最後になりましたが、今回の調査に対してご協力いただきました関係機関の皆様に心より感謝申し上げます。

【参考文献】

- | | | |
|------|-----------------------|--|
| 1981 | 米沢市教委員会 | 米沢市埋蔵文化財調査報告書 第7集
「笹原」 |
| 1987 | 東北陶磁文化館 | 「東北の近世陶磁」 |
| 1993 | 米沢市教育委員会 | 米沢市埋蔵文化財調査報告書 第36集
「大浦B遺跡発掘調査報告書」 |
| 1999 | 米沢市史編さん委員会 | 「米沢市史 大年表・索引」 |
| 2006 | 山形県埋蔵文化財センター | 山形県埋蔵文化財センター調査報告書 第149集
「上野遺跡発掘調査報告書」 |
| 2007 | 東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター | 「山形県高畠町高安窯跡群A地区第一次調査報告書」 |

報告書抄録

ふりがな 書名	かいどうにしたいせきはつくつちょうさほうこくしょ 街道西下遺跡発掘調査報告書
副書名	
卷次	
シリーズ名	米沢市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第94集
編著者名	菊地政信
編集機関	米沢市教育委員会
所在地	〒992-0012 山形県米沢市金池三丁目1-55号 TEL(0238)22-5111
発行年月日	西暦2008年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かいどうにした 街道西下	よねざわし 米沢市 なかたまち 中田町 928-1 外	6202	米沢市 遺跡番号 I-666	37度 56分 1秒	140度 6分 47秒	20070523 ~ 20070610 20070620 ~ 20070721 20071120 20071121	2,313	店舗建設 に係わる 発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
街道西下	屋敷跡	中世	竪穴住居跡 墓壙 州浜形 溝状遺構 掘立柱建物跡 溝状遺構 井戸跡	布目瓦 土師器 須恵器 中世陶器 曲物 建築部材	州浜形溝状遺構の庭を 有する動乱期の屋敷跡 である。

写 真 図 版



▲表土剥離風景 北東から



▲表土剥離風景 南東から



▲竪穴住居跡 (HY1) 完掘状況 南東から



▲竪穴住居跡 (HY2) 完掘状況 東方から



▲遺物出土状況 (AZ10) HY1 床面



▲遺物出土状況 (AZ13) HY1 直上



▲DN9セクション状況 南方から



▲DN6セクション状況 東方から

第一回版
街道西下遺跡の発掘



▲ DNS 堀下げ状況（上部）



▲ DNS セクション状況



▲ DNS 堀下げ状況



▲ DNS 堀下げ状況



▲ KY4 セクション状況



▲ KY4 全景 北方から



▲ KY4 南側プラン確認状況 東方から



▲ KY4 南側堀下げ状況 南西から



▲ KY9 州浜形溝状遺構 遠景



▲ KY9 州浜形溝状遺構掘下げ状況



▲ KY9 州浜形溝状遺構セクション状況 北西から



▲ KY9 州浜形溝状遺構柱穴セクション状況 東方から



▲ KY9 州浜形溝状遺構・KY12 全景 南西から



▲ KY9 州浜形溝状遺構近景 北方から



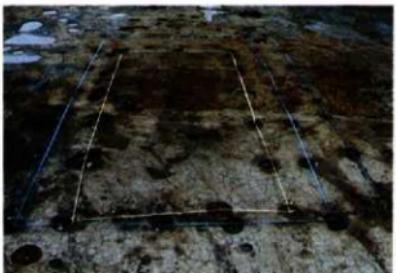
▲ KY9 州浜形溝状遺構全景 北方から



▲ KY9 州浜形溝状遺構全景 北方から



▲調査区全景 北方から



▲据立柱建物跡 (BY1・2) 西方から



▲柱穴 (TY2) セクション状況 南方から



▲柱穴 (TY16) セクション状況 東方から



▲柱穴 (TY32) セクション状況 南方から



▲柱穴 (TY3) セクション状況 東方から

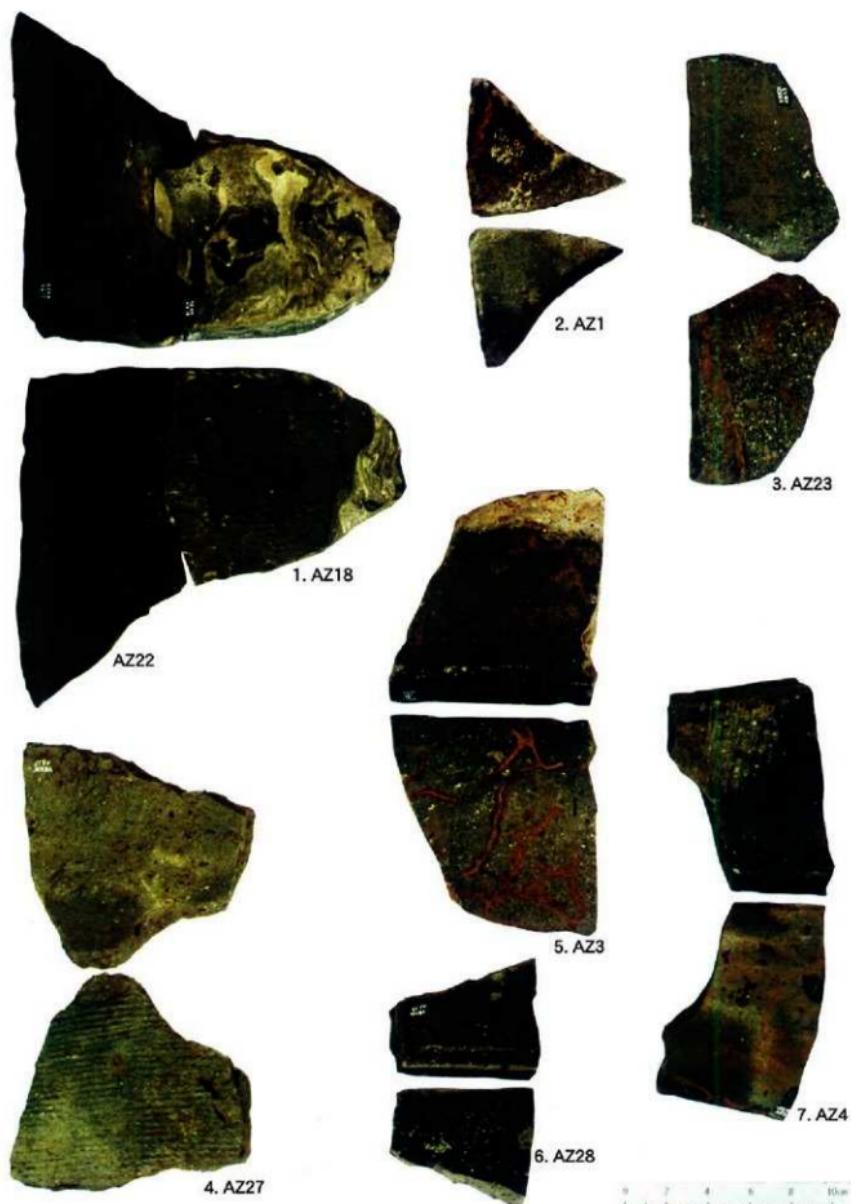


▲柱穴 (TY12) 完掘状況



▲柱穴 (TY17) 完掘状況

第五図版 街道西下遺跡出土 瓦



0 1 2 3 4 5 6 7 8 10cm

第六圖版 街道西下遺跡出土遺物



1. AZ10



2. AZ15·16



3. AZ11



4. GZ1



5. EZ2



6. 羽口

7. 鐵滓

第七図版 街道西下遺跡出土 DN五枠組



▲第14図 A



▲第14図 B

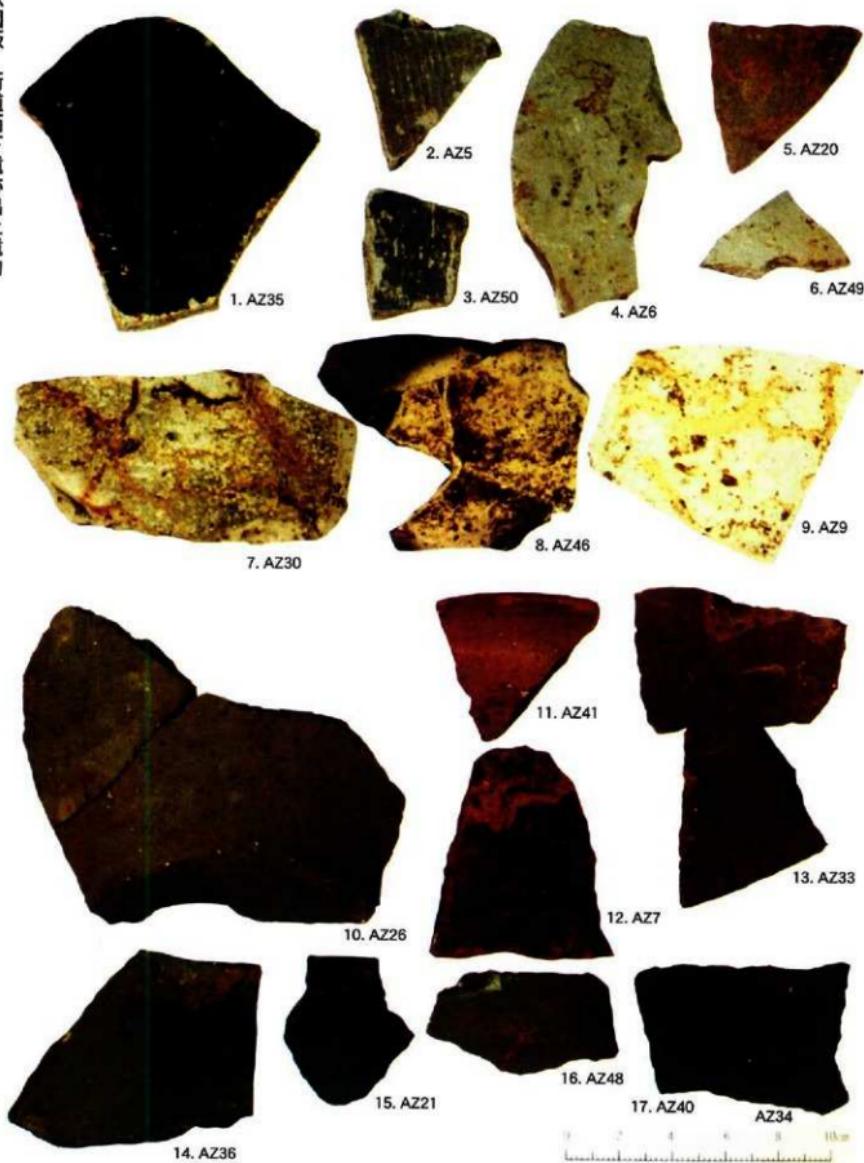


▲第14図 C



▲第14図 D

第八圖版 街道西下遺跡出土遺物



米沢市埋蔵文化財調査報告書 第94集

**街道西下遺跡
発掘調査報告書**

平成20年3月19日 印刷
平成20年3月31日 発行

発行 米沢市教育委員会
米沢市金池三丁目1-55
TEL (0238) 22-5111
印刷 有限会社みなみ工房
米沢市諸仏町4866-18
TEL (0238) 38-4639